

C8
4

+277-344
TC-31

法令全書

詔勅

御名 御璽

明治二十九年二月十五日

朕帝國憲法第七條ニ依リ二月十五日ヨリ二十四日迄十日間帝國議會ノ停會ヲ命ス



- 内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
- 海軍大臣 侯爵西郷從道
- 陸軍大臣 侯爵大山 巖
- 農商務大臣 子爵榎本武揚
- 大藏大臣 子爵渡邊國武
- 司法大臣 兼 芳川顯正
- 内務大臣
- 外務大臣 臨時代理
- 文部大臣 侯爵西園寺公望
- 文部大臣 侯爵西園寺公望
- 遞信大臣 白根專一

明治二十九年二月 詔勅

朕三月二十八日迄二日間帝國議會會期ノ延長ヲ命ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

海軍大臣侯爵西郷從道

陸軍大臣侯爵大山 巖

農商務大臣子爵榎木武揚

大藏大臣子爵渡邊 國武

司法大臣兼 芳川 顯正

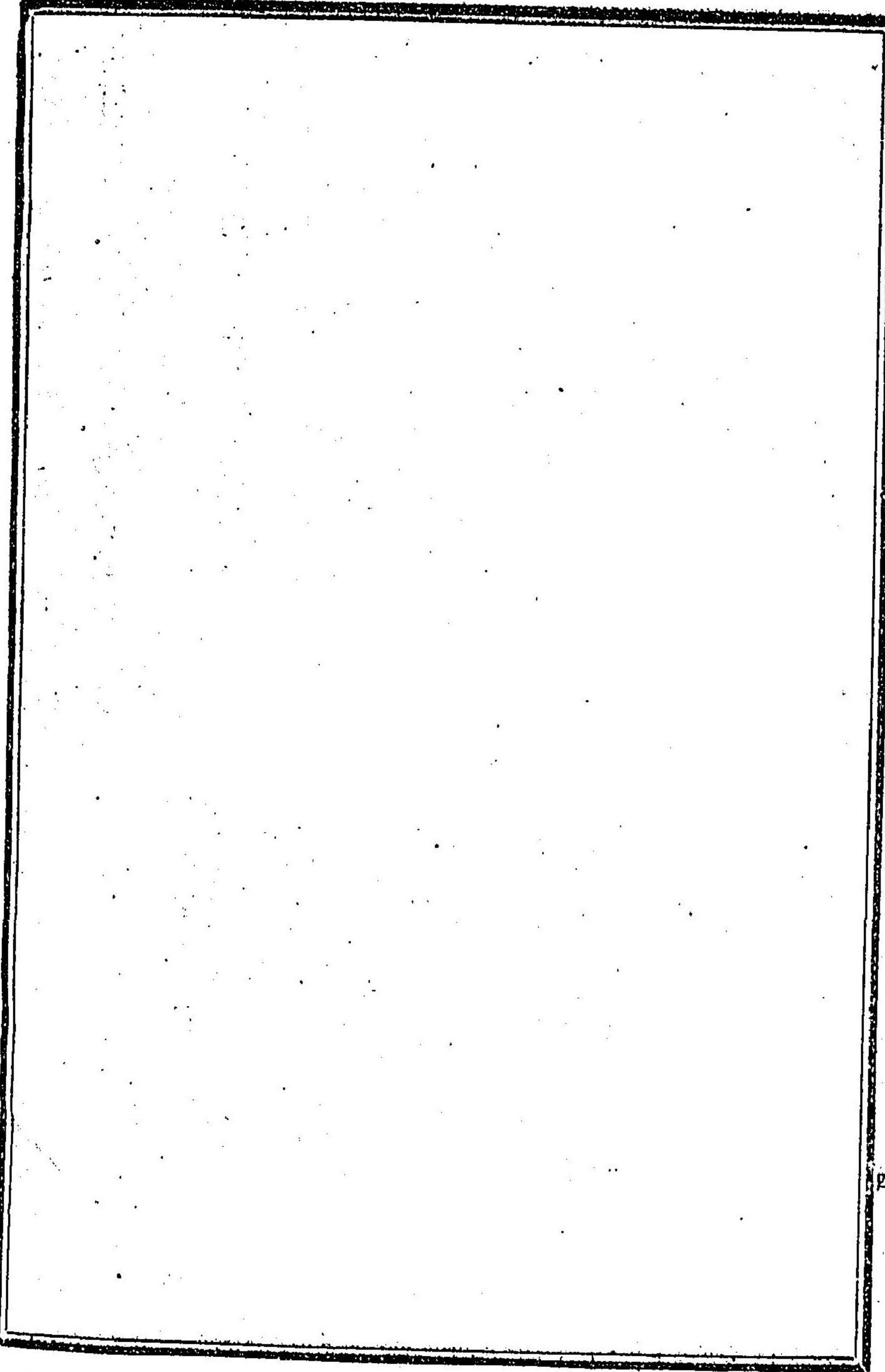
内務大臣

外務大臣臨時代理

文部大臣侯爵西園寺公望

文部大臣侯爵西園寺公望

遞信大臣 白根 專一

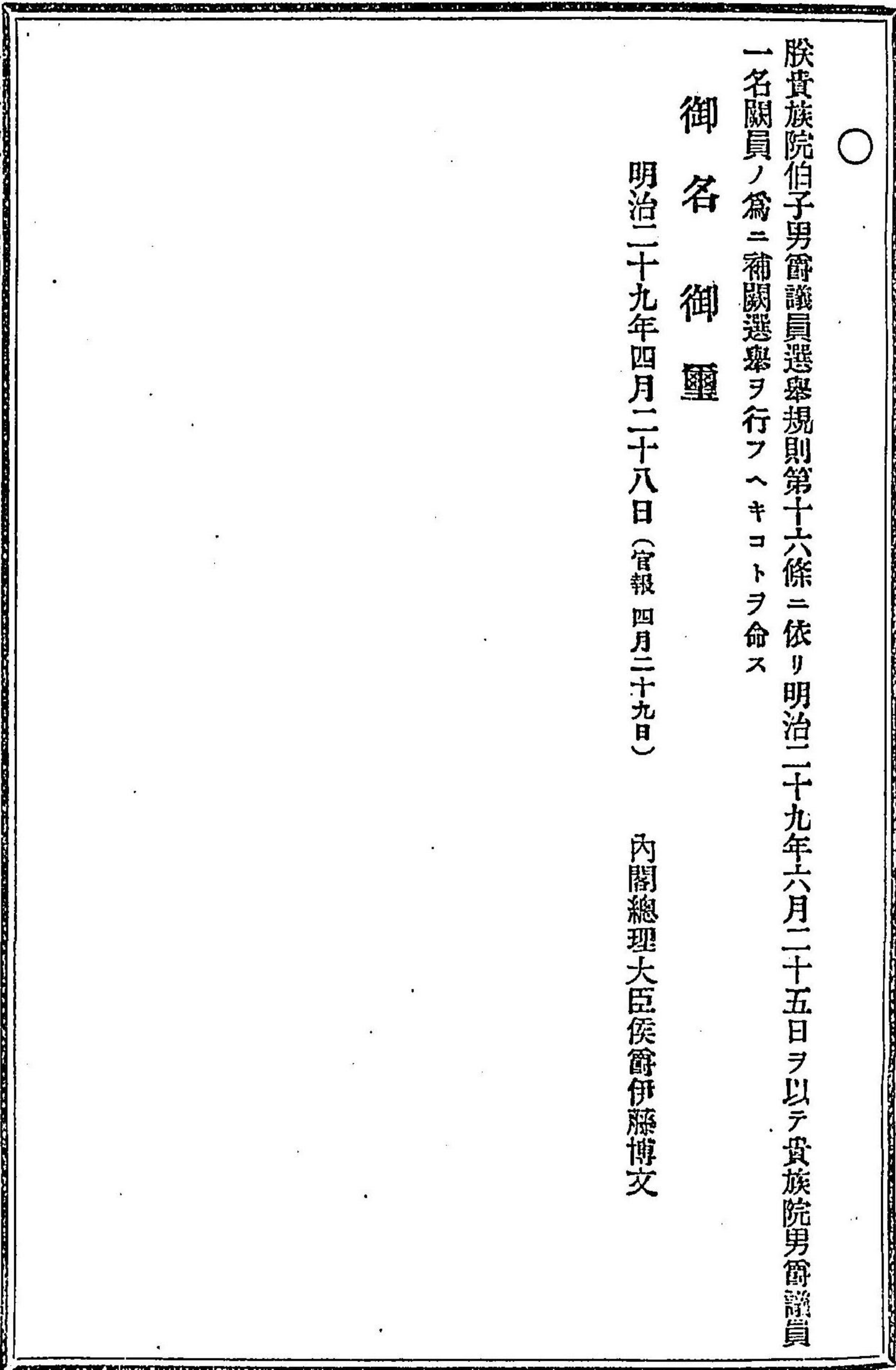


○
朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十九年六月二十五日ヲ以テ貴族院男爵議員
一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十九年四月二十八日(官報四月二十九日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文



明治二十九年四月 詔勅

六

○
朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十九年七月二日ヲ以テ貴族院子爵議員一名
闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十九年五月五日(官報五月六日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

明治二十九年五月 詔勅

七

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十九年十月九日ヲ以テ貴族院子爵議員一名
闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

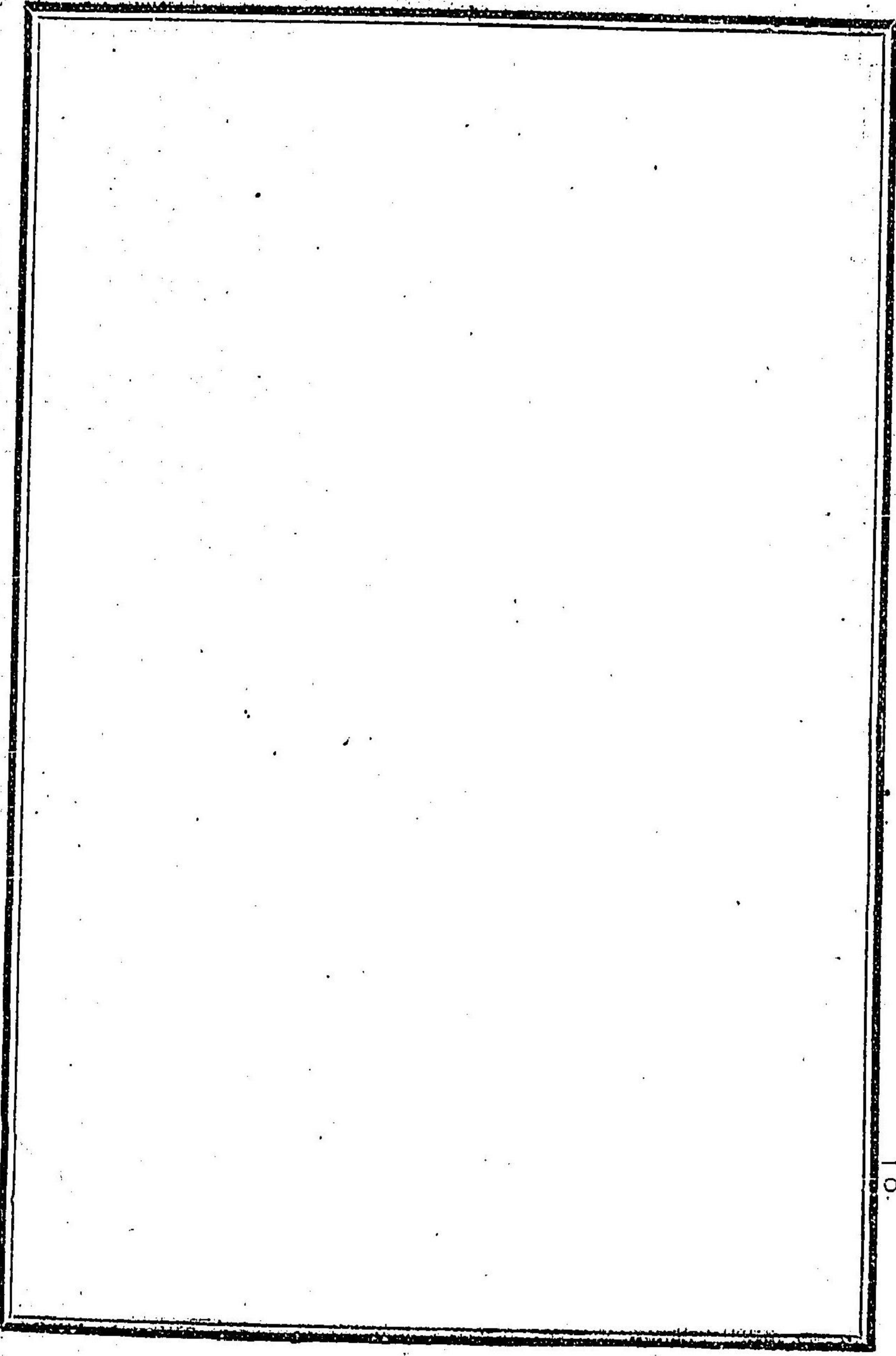
明治二十九年八月十二日 (官報八月十三日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

朕正二位大勳位侯爵伊藤博文ヲ待ツニ特ニ大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ元勳優遇ノ意ヲ昭ニス

(官報八月三十一日)

明治二十九年八月 詔勅



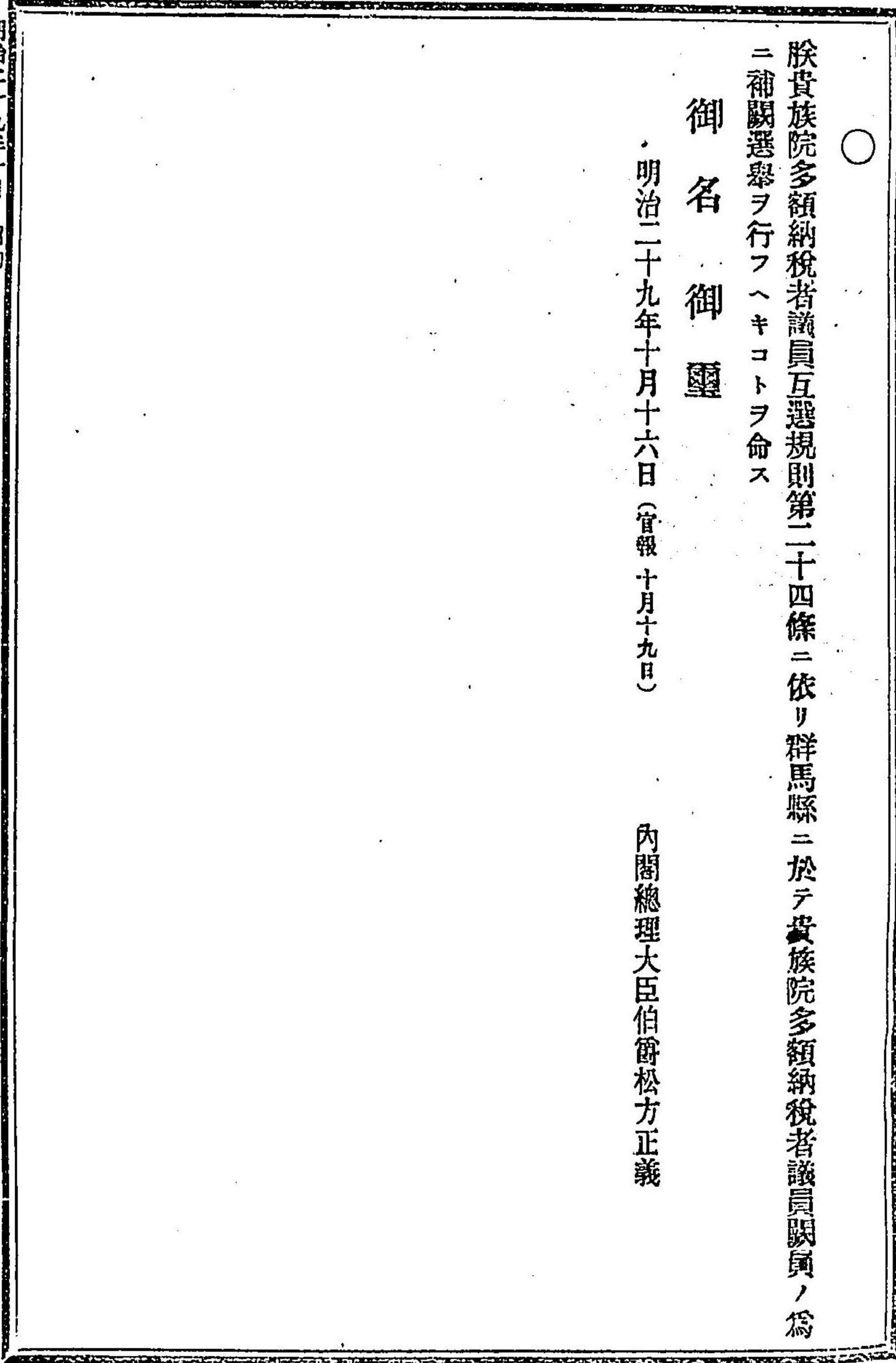
○
朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ群馬縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員議員ノ爲
ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十九年十月十六日 (官報十月十九日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

明治二十九年十月 詔勅



朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月二十二日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治二十九年十一月六日 (官報十一月七日)

- 內閣總理大臣兼 大藏大臣 臣伯爵松方正義
- 海軍大臣 臣侯爵西鄉從道
- 外務大臣 臣伯爵大隈重信
- 農商務大臣 臣子爵榎本武揚
- 拓殖務大臣兼 陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
- 內務大臣 臣伯爵樺山資紀
- 逓信大臣 臣子爵野村靖
- 司法大臣 臣清浦奎吾
- 文部大臣 臣侯爵蜂須賀茂韶

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月二十五日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治二十九年十二月二十二日(宣報十二月二十四日)

- 内閣總理大臣兼 大藏大臣 伯爵松方正義
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 農商務大臣 伯爵榎本武揚
- 拓殖務大臣兼 陸軍大臣 伯爵高島鞆之助
- 内務大臣 伯爵樺山資紀
- 遞信大臣 伯爵野村靖
- 司法大臣 清浦奎吾
- 文部大臣 伯爵峰須賀茂詔

法令全書

法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官設鐵道用品資金増加法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武
逓信大臣 白根專一

法律第一號 (官報二月十日)

明治二十九年二月八日ニ於テ官設鐵道用品資金ニ金二十五萬圓ヲ増加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金拂概算渡ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武
逓信大臣 白根專一

法律第二號 (官報二月十日)

官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ル、トキ前金拂概算渡ヲ爲スコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル理事ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
陸軍大臣 侯爵大山 巖

法律第三號 (官報 二月十日)

理事豫備トナリ若ハ退職トナリタルトキハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ於テ退官者ト同視シ其ノ豫備ニ在ル者戰時若ハ事變ニ際シ現職ニ復シタルトキハ再ヒ任官シタルモノト同視ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法官試補實地修習期間ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月十四日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
司法大臣 芳川顯正

法律第四號 (官報 二月十五日)

司法官試補ノ實地修習期間ハ今後五箇年間ハ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國債證券買入銷却法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月二十日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第五號 (官報 二月二十一日)

國債證券買入銷却法

第一條 政府ハ毎年度國債費豫算定額以內ニ於テ國債證券ヲ買入レ之カ銷却ヲ爲スコトヲ得
前項買入ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條 國債證券ノ買入銷却ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ其ノ證券ノ種類、番號、總額及其ノ買入價格ヲ告示スヘシ

第三條 銷却ノ爲ニスル國債證券ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル償金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月四日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第六號 (官報 三月五日)

償金特別會計法

第一條 償金及其ノ利子ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 償金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本銀行ヲシテ其ノ交換ヲ取扱ハシム

前項ノ交換ヨリ生スル差増減ハ本會計ノ歳入出ニ屬スルモノトス

第三條 國庫内現金融通ノ爲國庫ヨリハ償金ノ金地金ヲ以テ、日本銀行ヨリハ之ニ相當スル兌換銀行券ヲ以テ相互間ニ貸借勘定ヲ組成スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル利子ノ割合ハ大藏大臣之ヲ定ム

前項ノ金地金ハ日本銀行ニ於テ兌換銀行券ノ準備ニ供スヘキモノトス

第四條 政府ハ毎年償金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業滿期國立銀行處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第七號 (官報 三月九日)

營業滿期國立銀行處分法

- 第一條 國立銀行ニシテ營業滿期後國立銀行條例第十二條ニ依リ私立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續セムトスルモノハ營業滿期ノ日ヨリ三箇月以前ニ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ
- 第二條 前條ノ國立銀行ニシテ資本金額ヲ減少シテ營業ヲ繼續セムトスルモノハ國立銀行條例第四十二條、第四十三條及第四十四條ノ手續ヲ了シタル上、前條ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ但シ同條例第十七條ノ制限ヲ適用スル限ニ在ラス
- 第三條 營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル
- 第四條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ノ解散手續ニ關シテハ商法株式會社解散及清算ノ條項ヲ適用ス
- 第五條 國立銀行ハ營業滿期日ニ於テ其ノ發行紙幣ヲ悉皆消却シ能ハサルトキハ消却殘高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ
- 私立銀行トナリテ營業ヲ繼續セムトスル國立銀行ニ於テ前項ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額ノ借入ヲ必要トスルトキハ大藏大臣ハ無利子貸付ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
- 第六條 前條第一項ノ金額ヲ收納シタルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ還付スヘシ

第七條 政府ハ國立銀行ヨリ納付シタル金額ヲ以テ紙幣消却ノ基金ト爲シ其ノ發行紙幣ヲ交換スヘシ

國立銀行其ノ紙幣消却殘高ニ相當スル金額ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ紙幣消却ノ基金ニ充ツヘシ

〔參照〕

- 第六條 國立銀行條例(明治九年八月一日)抄錄
- 第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ、銀行其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サズ
- 第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ大藏大臣ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從奉スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サズ但シ大藏大臣ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクトモ三箇月以前ニ於テ資本金額ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先(送達)スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ
- 第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ハ貸金、預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日ヲ至ラスト雖トモ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定期ニ準備シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ
- 第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス
- 第二 其他期限未滿タリトモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス
- 第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條、第四十三條ニ掲ケル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ大藏大臣ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條、第四十三條ノ規定ニ背反シ資本金額減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルトキハ大藏大臣ハ右資本金額減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ
- 第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主總席ノ總長(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲ行フ後十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其總席シタル株主總長ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月七日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第八號 (官報 三月九日)

第一條 國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス

第二條 國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ其ノ引換方ヲ政府ニ請求スヘシ

前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス

第三條 本法ハ官命又ハ平穩鎮店ニ係ル國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鎮守府造船材料資金増加ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月七日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
海軍大臣侯爵西鄉從道
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第九號 (官報 三月九日)

明治二十九年度ヨリ漸次ニ金百四拾五萬五千五百參拾四圓貳拾八錢四厘ヲ鎮守府造船材料資金ニ増加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時軍事費特別會計ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月七日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
海軍大臣侯爵西鄉從道
陸軍大臣侯爵大山 巖
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第十號 (官報 三月九日)

第一條 臨時軍事費特別會計ハ明治二十九年三月三十一日ヲ以テ終結ス

第二條 臨時軍事費特別會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ明治三十年三月三十一日マテニ悉皆完結スヘシ

第三條 臨時軍事費ノ支辨ニ關スル工事製造等ノ事業ニシテ明治二十九年三月三十一日マテニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ一般會計ニ移シ遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第四條 臨時軍事費ノ支辨ニ屬スル諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ若ハ支出スヘキ債務確定シ明治二十九年三月三十一日マテニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ一般會計ニ移シテ使用スルコトヲ得

第五條 臨時軍事費特別會計ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ一般會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國立銀行營業滿期前特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十一日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第十一號 (官報 三月二十三日)

國立銀行營業滿期前特別處分法

- 第一條 國立銀行ハ營業滿期前ト雖私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期前ニ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコト及改正定款ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ノ許可ヲ請フヘシ
- 第三條 前條營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル
- 第四條 第二條ノ許可ヲ得タルトキハ國立銀行ハ其ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ同時ニ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告シ異議アル者ハ三箇月内ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス
- 第五條 債權者第四條ノ期間ニ異議ヲ申出タルトキハ國立銀行ハ其ノ債務金額及支拂當日マテノ利子ヲ辨償スヘシ
- 第六條 國立銀行ハ第五條ノ規程ニ從ヒ辨償ヲ了ヘ且ツ第四條ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ私立銀行トナルコトヲ得ス
- 第七條 過怠ナキ不知ノ爲第四條ノ期間ニ異議ヲ申出サル債權者ヨリ債務ノ辨償ヲ要求シタルト

- キハ銀行ハ約定期限前ト雖第五條ノ規程ニ從ヒ辨償スヘシ
- 第八條 營業滿期國立銀行處分法第二條及第五條ノ規程ハ營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ニモ之ヲ適用ス
- 第九條 營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ノ紙幣消却ニ付テハ政府ハ營業滿期國立銀行處分法第六條及第七條ニ依リ之ヲ處分ス

〔參照〕

國立銀行條例第六十九條ハ法律第七號參照ニ在リ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十一日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第十二號 (官報 三月二十三日)

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條國立銀行紙幣ノ下ニ左ノ二十三字ヲ加フ
並ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣

〔參照〕

法律第二十五號鎖店銀行紙幣交換基金會計法(明治二十三年三月二十八日官報)抄録

第五條 本法ハ本種商店ヲ爲シ又ハ營業期間ニ至リタル國立銀行紙幣交換基金ノ會計ニモ之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公立學校職員退隱料等ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年三月二十二日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
文部大臣侯爵西園寺公望

法律第十三號 (官報 三月二十四日)

第一條 明治二十三年法律第九十號ハ第十五條ヲ除キ市町村立ノ徒弟學校及實業補習學校ノ教員ニ適用シ同年法律第九十一號ハ第一條及第二十條ヲ除キ公立ノ高等女學校、專門學校、技藝學校及其ノ他ノ公立學校ノ學校長及教員ニ適用ス

第二條 明治二十三年法律第九十號第二條及同年法律第九十一號第三條ハ非職又ハ休職満期ニ依リ退職シ及校務ノ伸縮ニ依リ退職ヲ命シタル場合ニモ適用ス
退隱料ハ本職最終ノ俸額ニ依リ之ヲ算定ス

第三條 明治二十三年法律第九十號同年法律第九十一號及此ノ法律ニ依リ退隱料等ヲ受クヘキ學校長、正教員ノ在職年月數ハ各公立學校ノ間ニ於テハ之ヲ通算ス

第四條 府縣立師範學校長タリシ者他ノ文官ト爲リ若ハ他ノ文官タリシ者府縣立師範學校長ト爲リタルトキハ其ノ在官年月數ハ明治二十三年法律第九十一號及官吏恩給法ニ於テハ各其ノ規定スル所ニ依リ其ノ在官年數若ハ在職年數中ニ通算スヘキモノトス

附則

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

明治二十三年法律第九十號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、法律第九十一號ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年三月二十三日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武
文部大臣侯爵西園寺公望

法律第十四號 (官報 三月二十四日)

市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法

第一條 市町村立尋常小學校及高等小學校ノ正教員及准教員ニシテ五箇年以上同一學校ニ勤績スル者ニハ國庫ヨリ年功加俸ヲ給ス

第二條 年功加俸ハ五箇年勤績シタル者ニ本俸ノ百分ノ十五ヲ給シ後五箇年ヲ加フル毎ニ更ニ百分ノ十ヲ加ヘ百分ノ三十五ニ至リテ止ム

第三條 此ノ法律施行前ヨリ勤績スル者ニ對シテハ明治二十三年勅令第二百五號小學校令發布後ニ於ケル勤務ノ月ヨリ其ノ勤績年數ヲ起算ス

- 第四條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令施行前又ハ同令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ此ノ法律ニ於ケル正教員トシ其ノ授業生及授業生ノ資格アル學校長ハ此ノ法律ニ於ケル准教員トス
- 第五條 學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ他ノ學校ニ轉任シ又ハ同一ノ事由ニ因リ退職シタル後六十日以内ニ他ノ學校ニ就職シタル者ハ仍勤績ノ例ニ依ル
- 第六條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内ニ更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤績年數ニ通算ス
- 第七條 年功加俸ハ明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ規定シタル諸給與及納金ノ關係ニ於テ本俸ニ加算ス
- 第八條 市町村、町村學校組合及區ハ寄附又ハ其ノ他ノ名義ヲ用井實際ノ支給額ヲ本俸額ヨリ低減スルコトヲ得ス但シ勅令又ハ省令ノ規定ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 附則
- 第十條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航海獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十三日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

逓信大臣 白根專一

法律第十五號 (官報 三月二十四日)

航海獎勵法

- 第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物、旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付ス
- 第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十海里以上ノ最快速力ヲ有シ逓信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製又ハ鋼製汽船ニ限ル
- 第三條 航海獎勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ逓信大臣ノ認許ヲ受クヘシ
- 第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス
 - 第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶
 - 第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶
 - 第三 帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶
- 第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最快速力ヲ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ増ス每ニ其ノ百分ノ十、最快速力一時間一海里ヲ増ス每ニ其ノ百分ノ二十ヲ増給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最快速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテハ總噸數六千噸又ハ最快速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス
- 航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シタル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス
- 航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス

帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里數ヲ算定ス

第七條 遞信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セズ

第八條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千五百噸未満

總噸數二千五百噸以上四千噸未満

總噸數四千噸以上

二八

三八

四八

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ズ但シ外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ズ但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サルトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ遞信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止シルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル造船獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十三日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黒田清隆

逓信大臣 白根尊一

法律第十六號 (官報 三月二十四日)

造船獎勵法

- 第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ逓信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス
- 第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ヲ有シ逓信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル
- 第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、二千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國內ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ逓信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ
- 第四條 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體及機關ニハ逓信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス
- 第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法犯罪俱發ノ例ヲ用井ス

第七條 前二條ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十四日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黒田清隆

農商務大臣子爵榎本武揚

法律第十七號 (官報 三月二十五日)

害蟲驅除豫防法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
- 第二條 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム
- 認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲ニ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、菓稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第二條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 此ノ法律ハ北海道、沖繩縣其ノ他市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

法律第一號市制(明治二十一年四月二十五日官報)抄録

第二百二條 市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)市稅(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リテ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ市會ハ市會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第二百三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)

三 市有不動産ノ賣却與買入書入ヲ爲ス事

四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ互リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

法律第一號町村制(明治二十一年四月二十五日官報抄録)
 第百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)町村税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ或改正スル事
- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
- 三 町村有不動産ノ賣却讓與或賃入替入ヲ爲ス事
- 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ互リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
- 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
- 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
- 九 第百一條ノ標準ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル開港外ニ於テ外國貿易ノ爲船舶出入及貨物輸出入ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
 樞密院議長伯爵黒田清隆
 大藏大臣子爵渡邊國武

法律第十八號(官報三月二十七日)

第一條 開港外ニ於テ外國貿易ノ爲帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ニ關シテハ稅關法及稅關規則ヲ適用ス

第三條 第一條ニ依リ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲ス港ヲ閉鎖スルトキハ六箇月前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布ス

第四條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル神奈川縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
 樞密院議長伯爵黒田清隆
 內務大臣 芳川顯正

法律第十九號(官報三月二十七日)

神奈川縣相模國大住郡及淘綾郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ中郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル長崎縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十號(官報三月二十七日)

長崎縣壹岐國壹岐郡及石田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ壹岐郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十一號(官報三月二十七日)

新潟縣越後國三島郡ノ一部(間瀬村)ヲ同縣同國西蒲原郡ニ編入ス

新潟縣佐渡國雜太郡加茂郡及羽茂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ佐渡郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十二號(官報三月二十七日)

山口縣長門國阿武郡及見島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ阿武郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十三號(官報三月二十七日)

和歌山縣紀伊國名草郡及海部郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ海草郡ヲ置ク

明治二十九年三月 法律 第二十二號 第二十三號

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル福岡縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十四號(官報三月二十七日)

福岡縣筑前國嘉麻郡及穂波郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ嘉穂郡ヲ置ク

福岡縣筑前國上座郡、下座郡及夜須郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ朝倉郡ヲ置ク

福岡縣筑前國御笠郡、那珂郡及席田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ筑紫郡ヲ置ク

福岡縣筑前國怡土郡及志摩郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ糸島郡ヲ置ク

福岡縣筑後國竹野郡ヲ廢シ其ノ區域ト生葉郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(姫治村、大石村、山春村、榛子村、浮羽村、千年村、福富村、江南村、吉井町)トヲ以テ浮羽郡ヲ置ク

福岡縣筑後國上妻郡及下妻郡ヲ廢シ其ノ區域ト生葉郡ニ屬セシ區域ノ一部(星野村)トヲ以テ八女郡ヲ置ク

福岡縣筑後國御井郡、御原郡及山本郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三井郡ヲ置ク

福岡縣豐前國京都郡及仲津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ京都郡ヲ置ク

福岡縣豐前國築城郡ヲ廢シ其ノ區域ト上毛郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(山田村、八屋町、宇島町、千束

女郡)ヲ置ク

村三毛門村、黒土村、横武村、合河村、西吉富村、岩屋村、友枝村、唐原村、南吉富村、東吉富村、高濱村、大字、小祝、内山國、川支流、以東ヲ除ク)トヲ以テ築上郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル佐賀縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十五號(官報三月二十七日)

佐賀縣肥前國基肄郡、養父郡及三根郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三養基郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宮崎縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十六日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第二十六號 (官報 三月二十七日)

宮崎縣日向國宮崎郡及北那珂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ宮崎郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登録税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第二十七號 (官報 三月二十八日)

登録税法

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 買受人 賣買代價千分ノ二十
時價相當價格千分ノ五
- 二 家督相續人戸主ノ死亡、失踪、但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ十トス 時價相當價格千分ノ十
- 三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ二十
- 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十
- 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競買ノ申立人 價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
時價相當價格千分ノ二
 - 二 家督相續人戸主ノ死亡、失踪、但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス 時價相當價格千分ノ五
 - 三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ五
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競買ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一
- 第四條 船舶ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録
 - 十五噸以上ノ船舶 金五十錢
 - 十五噸未滿ノ船舶 金十錢
 - 二 轉籍
 - 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 十五噸未滿ノ船舶 每十噸金十錢

三 除 籍 ^{十五噸未滿ノ船舶}
 每十噸金五錢

四 登簿事項ノ變更
 一號二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録
 地價千分ノ二十

二 地價ノ設定 ^{復舊}
 地價千分ノ十

三 地價ノ修正
 地價千分ノ十

四 開墾
 地價千分ノ十

五 鐵下年期付與
 地價千分ノ十

六 地價据置年期付與
 地價千分ノ十

七 鐵下年期ノ繼年期付與
 地價千分ノ十

八 新開免租年期ノ繼年期付與
 地價千分ノ十

九 低價年期ノ付與
 地價千分ノ十

十 段別ノ増減
 地價千分ノ五

十一 分裂又ハ合併
 地價千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 合名會社、合資會社設立
 資本金額千分ノ二

二 合名會社、合資會社資本増加
 増加資本金額千分ノ二

三 合名會社、合資會社支店設置
 會社資本金額万分ノ二

四 株式會社設立
 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三

五 株式會社設立後ノ資本金拂込
 每拂込金額千分ノ三

六 株式會社支店設置
 現在拂込資本金額万分ノ三

七 登記事項ノ變更 ^{資本ノ增加及拂込}
 每一件金三圓

八 解散
 每一件金一圓

第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録
 金二十圓

二 登録換
 金十圓

三 取消ノ請求
 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録
 醫師 金二十圓
 藥劑師 金十二圓
 獸醫 金十二圓
 蹄鐵工 金五圓
 假開業醫師 金五圓
 假免許獸醫 金三圓

二 登録事項ノ變更
 每一件金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉手 金十圓
 - 甲種二等運轉手 金六圓
 - 甲種一等機關手 金十五圓
 - 甲種二等機關手 金十圓
 - 乙種船長 金十圓
 - 乙種一等運轉手 金六圓
 - 乙種二等運轉手 金四圓
 - 乙種一等機關手 金十圓
 - 乙種二等機關手 金六圓
 - 小形船機關手 金四圓
 - 水先人 金二十圓
- 二 登録事項ノ變更 每一件金五十圓
- 第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 普通ノ文書圖書 一種毎ニ金五圓
 - 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖書 一冊毎ニ金二圓五十錢
 - 三 雜誌ノ類 一冊毎ニ金五十錢
 - 四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五十圓
 - 五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金二十圓
 - 六 寫眞 一版毎ニ金五圓

第十一條

特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 五年ノ特許 金二十圓
 - 十年ノ特許 金三十圓
 - 十五年ノ特許 金四十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
 - 三 書入契約 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録
- 三年ノ専用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ専用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ専用 物品一類毎ニ金七圓
 - 十年ノ専用 物品一類毎ニ金十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓
 - 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓

第十三條

商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規並續用登録

- 商品一類毎ニ金二十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓
- 第十四條 鐵業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 試掘 金五十圓

二 探掘	金百圓
三 試掘增區及增減區ニ係ル訂正	金二十五圓
四 探掘增區及增減區ニ係ル訂正	金五十圓
五 買受讓受	金五十圓
六 探掘權書入又ハ試掘延期	金十五圓
七 減區ニ係ル訂正	金五圓
八 鑽區ノ合併又ハ分割	金十圓
九 廢業	金五圓
第十五條 左ノ事項ニ付キ戶籍ニ登記スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ	
一 左ニ列記スルモノ	金一圓
身分變換	
復姓	
改名	
家督相續	
相續人入籍	
廢戶主	
廢嫡	
分家	
廢嫡者復立	
絕家再興	
離婚送籍	

二	相續人送籍 私生子引受 左ニ列記スルモノ 養子女入籍 結婚入籍 相續人離縁送籍 養子女離縁送籍 轉籍 私生子引渡 戶内離婚 庶子私生子ヲ嫡出トナスモノ 左ニ列記スルモノ	金七十錢
三	戶籍訂正 戶内結婚 縁女入籍 結婚送籍 縁女送籍 養子女送籍 左ニ列記スルモノ	金五十錢
四	分家者復歸入籍 養子女離縁復籍	金三十錢

相續人離縁復籍
離婚復籍
縁女離縁復籍
五 左ニ列記スルモノ
出生
失踪者復歸
失踪者所在分明
六 左ニ列記スルモノ
携帶者入籍
親族入籍
附籍者入籍
携帶者送籍
親族送籍
附籍者送籍
第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 新規記名 額面金額千分ノ二
二 左ニ列記スルモノ 額面金額千分ノ一
記名變更
枚數變更
記名除却
第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スル

コトヲ得
第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
第十九條 無資力ニシテ左ニ掲クル者及窮民ニシテ公ノ救助ヲ受クル者ハ戶籍ノ登録稅ヲ免除ス
一 一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者
二 十三年未滿六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者
三 婦女子ニシテ一定ノ職業ナキ者又ハ他人ニ雇使セラレ、者
附則
第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第二十八號(官報 三月二十八日)

酒造稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス
第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セム

明治二十九年三月 法律 第二十八號

トスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

- 第一種 清酒 一石 金七圓
- 第二種 濁酒 一石 金六圓
- 第三種 燒酎 一石 金八圓

但シ當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡磯谷郡 歌志郡 檜山郡 久遠郡 奥尻郡 島牧郡 膽振國

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

- 第一期 七月一日ヨリ同十五日限
- 前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一
- 第二期 九月一日ヨリ同十五日限
- 同上
- 第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限
- 同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一
- 第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル膠ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

- 一 他人ニ讓渡ストキ
- 二 公賣セラルトキ
- 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルハコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石稅ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ
- 三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ
- 四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ供スヘシ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ
- 三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ
- 四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

一 相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ
 二 納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
 三 造石稅ヲ前納シタルトキ
 第十五條 酒類ヲ製造スル者稅金ヲ納メサルトキハ政府ハ納稅保證ニ供シタル保證物及保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石稅金ヲ徵收スヘシ但シ仍舊納アルトキ滯納處分ノ執行ヲ妨ケス
 第十六條 納稅保證人ハ酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス
 第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
 第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
 第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ検査監督ヲ受クヘシ
 第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ酒類ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス
 第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類、酒類製造用ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 免許ヲ受ケスシテ醪、濁酒、白酒、燒酎製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、燒酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍舊本項ニ依ル
 第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス
 第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス
 第二十六條 納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍舊金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス
 第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ忘リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル
 第三十一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅町村費ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月二十日前検査済石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル第三十八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

〔參照〕

明治十三年九月二日布告第四十號ハ酒造稅則、布告第四十一號ハ釀造營業稅則、同十六年十一月八日布告第四十二號ハ醸造營業者釀元ニ供スルタメ酒類ヲ製造スル者酒造稅則ニ準據スルノ件、同二十二年九月三十日法律第二十四號ハ北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ナリ

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣子爵渡邊國武

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル自家用酒税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第二十九號(官報三月二十八日)

自家用酒税法

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セムトスル者此ノ税法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間(其ノ年^{リ翌年九}月マデ)二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其ノ納額五圓未満ノ者ハ其ノ造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス

一 前條但書ニ該當スル者

金二圓

二 直接國稅五圓以上十圓未満ノ者

一石迄

二石迄

金三圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 左に掲クル者及其ノ家族同居者同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

- 一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
- 二 酒類製造營業人及酒類販賣人
- 三 醬油製造營業人及醬油販賣人
- 四 酒母又ハ醱製造人及酒母販賣人
- 五 酢製造營業人及酢販賣人
- 六 料理店飲食店旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ效力ヲ失フモノトス

第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒味淋酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造稅法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ検査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十三條 自家用酒製造者ノ家族雇人同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ

製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第十四條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 沖繩縣東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

〔參照〕

明治十九年八月二勅令第六十號ハ酒造稅則附則改正ノ件ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル混成酒稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯耆黒田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第三十號 (官報 三月二十八日)

混成酒稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 四 飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス
 混成酒元用トシテ酒造稅法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス
 第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ造石數ヲ
 増加スルニ止ルモノハ其ノ増加石數ノミニ課稅ス
 第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス
 第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限
 第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限
 七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定濟石數ニ係ル稅額
 第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ
 又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
 第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七條 酒造稅法第二條第七條第八條第十一條第十二條第十八條第十九條第二十二條第一項、
 第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條
 ハ混成酒ノ製造ニ適用ス
 附則
 第八條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス
 第九條 沖繩縣東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣酒類出港稅則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第三十一號(官報三月二十八日)

明治二十一年勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

- 第一條 沖繩縣ニ於テ製造シテ他ノ地方ニ輸出スル酒類ニハ出港稅ヲ課ス其酒類及稅率左ノ如シ
- | | | |
|--------|------|-----|
| 第一種 清酒 | 一石ニ付 | 金六圓 |
| 第二種 濁酒 | 一石ニ付 | 金五圓 |
| 第三種 燒酎 | 一石ニ付 | 金七圓 |
| 附則 酒類 | | |

此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則(明治二十一年三月二十二日官報抄錄)
 第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類一石ニ付金三圓ヲ賦課ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治十九年勅令第六十一號稅率改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

法律第三十二號 (官報 三月二十八日)

明治十九年勅令第六十一號中酒類及稅率ヲ左ノ通改正ス

- 第一種 清酒 白酒 一石ニ付 金七圓
- 第二種 濁酒 一石ニ付 金六圓
- 第三種 燒酎 一石ニ付 金八圓
- 附則 酒 精 一石ニ付 金八圓

此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第六十一號 (明治十九年八月二日官報)

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

醸造酒 一石ニ付 金四圓

蒸溜酒 一石ニ付 金五圓

再製酒 一石ニ付 金六圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣子爵渡邊國武

法律第三十三號 (官報 三月二十八日)

營業稅法

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繫場業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 土木請負業
- 一 勞力請負業
- 一 印刷業
- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業

一 料理店業

一 公ナル周旋業

一 代辨業

一 仲立業

一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫真業ニシテ職工雇人ヲ通シテ一人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃借價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二 自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

三 度量衡ノ製作、修復、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣八万分ノ五 小賣八万分ノ十五
銀行業保險業金貨貸付業物品貸付業	從業者 資本金額 建物賃貸價格	一八每ニ金一圓 千分ノ四十五 千分ノ四十五
倉庫業	從業者 資本金額 建物賃貸價格	一八每ニ金一圓 千分ノ二十 千分ノ二十
製造業印刷業寫眞業	從業者 資本金額 建物賃貸價格	一八每ニ金一圓 千分ノ四十五 千分ノ四十五
運送業運河業橋樑業船渠業船舶碼頭業貨物陸揚揚業	從業者 資本金額	一八每ニ金一圓 千分ノ二十 千分ノ二十
土木請負業勞力請負業	請負金額	一八每ニ金一圓 千分ノ二十 千分ノ二十
席貸業料理店業	從業者 建物賃貸價格	一八每ニ金一圓 千分ノ六十 千分ノ六十
旅人宿業	從業者 建物賃貸價格	一八每ニ金一圓 千分ノ四十 千分ノ四十
公ナル周旋業代辦業仲立業仲買業	報償金額	一八每ニ金一圓 百圓每ニ金一圓 一八每ニ金一圓

第十二條 此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳

記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二 資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其ノ殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃貸價格ハ店舖其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモ

ノヲ以テ建物貸賃價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物貸賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ貸賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル貸賃價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其ノ貸賃價格ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス
左ニ掲グル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物貸賃價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條 第十八條第三項ノ建物貸賃價格算定ニ付異議ノ申立アリタルトキハ評價人ヲ定メ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

評價人ハ四人トシ二人ハ政府ヨリ之ヲ命シ二人ハ土地建物所在市町村長之ヲ選定ス但シ費用ハ本人ノ負擔トス

前項市町村長ノ職務ハ特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長、沖繩縣ニ於テハ役所長之ヲ行フ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得
一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、請負金額、報償金額又ハ建物貸賃價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ税金ヲ減額スルコトヲ得
一 課稅ノ標準タル賣上金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物貸賃價格ハ前

前年中ノ平均額ノ半額ニ達セザルトキ

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲ケル營業者ハ貨物ノ仕入賣上受入貸付廻送從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不罰罪減輕再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十六條 府縣ハ此ノ税法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十八條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラズ

明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル煙草稅則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理 樞密院議長伯爵黑田清隆 大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第三十四號 (官報 三月二十八日)

明治二十一年勅令第二十號煙草稅則中第六條及第七條ヲ刪除シ第二十三條ヲ左ノ通改正ス

營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

附則

此法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第二十號煙草稅則(明治二十一年四月七日官報抄録)

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業シ

札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條第二項

煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡賣渡讓渡スコトヲ得ス

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ通稅ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル葉煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十七日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第三十五號(官報三月二十八日)

葉煙草專賣法

- 第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス
- 第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ
何人ヲ問ハス政府ヨリ買受ケタル葉煙草ニ非サレハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス
- 第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其ノ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス
- 第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スルトキハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スヘシ
葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ其ノ品位等級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム若
此ノ鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年四月三十日迄ニ政府ニ其ノ段別ヲ届出ヘシ
- 第六條 葉煙草ハ政府ニ届出テタル土地ニ非サレハ耕作スルコトヲ得ス
- 第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタルトキハ其ノ耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其ノ旨政府ニ届出ヘシ
- 第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルコトヲ得ス

第九條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草收穫ノ前及葉煙草乾燥ヲ了リタル後政府ニ届出テ検査ヲ受
クヘシ

第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタ
ル場所ニ之ヲ納付スヘシ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セムトスルトキハ政府ノ認許ヲ受クヘシ

第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ヲ買受クルコトヲ得ス又自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏
スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ標本トシテ買受クルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 輸出ニ供スル葉煙草ハ政府ノ認許ヲ受クルトキハ之ヲ政府ニ納付セシテ他ニ賣渡ス
コトヲ得

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其ノ保管證ヲ以テ賣買スルコトヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年內ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納シ第
四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草ハ輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管者ハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ検査スルコトヲ
得ルヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在ト認ムル場所ニ立入又ハ監
督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノハ其ノ所在ニ就キ之ヲ検査ヲ爲スコトヲ
得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設ケテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出ヲ爲サシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出ヲ爲サル土地ニ葉煙草ヲ耕
作シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者葉煙草ヲ買受ケ又ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキ其ノ收納及賠償金ノ交付ハ前條但書ヲ適用ス

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲サル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 葉煙草ノ收穫ヲ始ムル前又ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後之カ届出ヲ爲サル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草ノ検査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不問罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第二十九條 本法ハ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス

第三十條 遠隔ノ島嶼ニシテ内地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ地方ニ對シ勅令

ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得

本法ヲ施行セサル地方ヨリ本法施行地ニ葉煙草ヲ輸入スルコトヲ得ス

第二十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

- 内閣總理大臣臨時代理
- 樞密院議長伯爵黑田清隆
- 海軍大臣侯爵西鄉從道
- 陸軍大臣侯爵大山巖
- 農商務大臣子爵榎本武揚
- 大藏大臣子爵渡邊國武
- 司法大臣兼 内務大臣 芳川顯正
- 外務大臣臨時代理
- 文部大臣侯爵西園寺公望

法律第三十六號 (官報 三月三十日)

文部大臣 侯爵西園寺公望
逓信大臣 白根專一

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

- 第一條 地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺族扶助ニ關スル在官年數中ニ算入ス
- 第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官判任以上ノ者ニシテ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入シ恩給ヲ增加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得
- 第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶助料若ハ一時扶助金ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定シタル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若ハ一時扶助金ヲ增加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得
- 第四條 第二條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受ケル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム
- 新ニ受ケヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受ケル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官賜金一時扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受ケヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス
- 第五條 恩給ヲ受ケル者郡區書記ニ任用セラレタルトキハ其ノ間恩給ヲ停止ス
- 第六條 第二條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス
- 第七條 第二條ニ依リ受ケヘキ恩給扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第九條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東京府下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣 臨時代理
樞密院議長 伯爵黑田清隆
內務大臣 芳川顯正

法律第三十七號 (官報 三月三十日)

東京府武藏國南豐島郡及東多摩郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ豐多摩郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル大阪府下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣 臨時代理
樞密院議長 伯爵黑田清隆
內務大臣 芳川顯正

法律第三十八號 (官報 三月三十日)

大阪府河内國石川郡錦部郡八上郡古市郡安宿部郡及丹南郡ヲ廢シ其ノ區域ト志紀郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(逆明寺村小山村柿原村太田村志紀村)トヲ以テ南河内郡ヲ置ク

大阪府河内國丹北郡大縣郡高安郡河内郡若江郡及澁川郡ヲ廢シ其ノ區域ト志紀郡ニ屬セシ區域ノ一部(三木本村)トヲ以テ中河内郡ヲ置ク

大阪府河内國茨田郡交野郡及讚良郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北河内郡ヲ置ク

大阪府和泉國大島郡及泉郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ泉北郡ヲ置ク

大阪府和泉國南郡及日根郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ泉南郡ヲ置ク

大阪府攝津國東成郡及住吉郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東成郡ヲ置ク

大阪府攝津國島上郡及島下郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三島郡ヲ置ク

大阪府攝津國豐島郡及能勢郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ豐能郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第三十九號 (官報 三月三十日)

兵庫縣攝津國武庫郡菟原郡及八部郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ武庫郡ヲ置ク

兵庫縣攝津國川邊郡ノ一部(高平村)ヲ同縣同國有馬郡ニ編入ス

兵庫縣但馬國城崎郡美含郡及氣多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ城崎郡ヲ置ク

兵庫縣但馬國七美郡及二方郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ美方郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國飾東郡及飾西郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飾磨郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國神東郡及神西郡ヲ廢シ其ノ區域ト多可郡ノ一部(越知谷村)トヲ以テ神崎郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國揖保郡及揖西郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ揖保郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル埼玉縣下國界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第四十號 (官報 三月三十日)

埼玉縣武藏國北足立郡及新座郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北足立郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國入間郡及高麗郡ヲ廢シ其ノ區域ト比企郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(植木村)トヲ以テ入間郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國橫見郡ヲ廢シ其ノ區域ト比企郡ニ屬セシ區域ノ一部(松山町、大岡村、福田村、宮前村、唐子村、菅谷村、七郷村、八和田村、小川町、大河村、竹澤村、平村、玉川村、明覺村、龜井村、今宿村、高坂村、野本村、小見野村、中山村、八ッ保村、伊草村、三保谷村、出丸村)トヲ以テ比企郡ヲ置ク
 埼玉縣武藏國兒玉郡、賀美郡及那珂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ兒玉郡ヲ置ク
 埼玉縣武藏國大里郡、幡羅郡、榛澤郡及男衾郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ大里郡ヲ置ク
 埼玉縣武藏國北葛飾郡及同縣下總國中葛飾郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北葛飾郡ヲ置キ武藏國ニ屬ス
 附則
 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
 樞密院議長伯爵黒田清隆
 内務大臣 芳川顯正

法律第四十一號(官報三月三十日)

群馬縣上野國東群馬郡及南勢多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ勢多郡ヲ置ク
 群馬縣上野國片岡郡ヲ廢シ其ノ區域ト西群馬郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(高崎町、元總社村、車郷村、長野村、清里村、相馬村、瀧川村、六郷村、室田村、大類村、箕輪村、久留馬村、國府村、總社町、金古町、佐野村、東村、上郊村、倉田村、岩鼻村、中川村、新高尾村、塚澤村、堤ヶ岡村、倉賀野町、澁川町、京ヶ島村、長尾村、小野上村、古卷村、白郷井村、金島村、桃井村、駒寄村、明治村、豊秋村、伊香保町)トヲ以テ群馬郡ヲ置ク

置ク

群馬縣上野國西群馬郡ニ屬セシ區域ノ一部(高山村)ヲ同縣同國吾妻郡ニ編入ス
 群馬縣上野國綠野郡、多胡郡及南甘樂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ多野郡ヲ置ク
 群馬縣上野國利根郡及北勢多郡ヲ廢シ其ノ區域ト吾妻郡ノ一部(久賀村)トヲ以テ利根郡ヲ置ク
 群馬縣上野國佐位郡及那波郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ佐波郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル千葉縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
 樞密院議長伯爵黒田清隆
 内務大臣 芳川顯正

法律第四十二號(官報三月三十日)

千葉縣安房國安房郡、平郡、朝夷郡及長狹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ安房郡ヲ置ク
 千葉縣上總國望陀郡、周准郡及天羽郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ君津郡ヲ置ク
 千葉縣上總國長柄郡及上埴生郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ長生郡ヲ置ク
 千葉縣上總國山邊郡及武射郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ山武郡ヲ置ク
 千葉縣下總國東葛飾郡及南相馬郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東葛飾郡ヲ置ク
 千葉縣下總國印旛郡及下埴生郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ印旛郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル茨城縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第四十三號(官報三月三十日)

茨城縣下總國結城郡岡田郡及豐田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ結城郡ヲ置ク

茨城縣下總國西葛飾郡及猿島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ猿島郡ヲ置ク

茨城縣常陸國信太郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(江戸崎町、君賀村、沼里村、奥野村、朝日村、君原村、阿見村、鳩崎村、木原村、舟島村、安中村、浮島村)ト河内郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(大宮村、生板村、源清田村、長竿村、柴崎村、根本村、長戸村、八原村、岡田村、馴柴村、牛久村、莖崎村、太田村、高田村、大須賀村、伊崎村、阿波村、古渡村、龍ヶ崎町)トヲ以テ稻敷郡ヲ置ク

茨城縣常陸國筑波郡ノ一部(山ノ莊村)及信太郡ニ屬セシ區域ノ一部(東村、中家村)ヲ同縣同國新治郡ニ編入ス

茨城縣下總國北相馬郡ノ一部(長崎村)同縣常陸國新治郡ノ一部(葛城村、大穗村、田水山村)及同縣常陸國河内郡ニ屬セシ區域ノ一部(小野川村)ヲ同縣常陸國筑波郡ニ編入ス

茨城縣下總國北相馬郡ノ一部(長崎村)同縣常陸國新治郡ノ一部(葛城村、大穗村、田水山村)及同縣常陸國河内郡ニ屬セシ區域ノ一部(小野川村)ヲ同縣常陸國筑波郡ニ編入ス

茨城縣下總國北相馬郡ノ一部(長崎村)同縣常陸國新治郡ノ一部(葛城村、大穗村、田水山村)及同縣常陸國河内郡ニ屬セシ區域ノ一部(小野川村)ヲ同縣常陸國筑波郡ニ編入ス

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル栃木縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第四十四號(官報三月三十日)

栃木縣下野國足利郡及梁田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ足利郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル奈良縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第四十五號(官報三月三十日)

奈良縣大和國添下郡及平群郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ生駒郡ヲ置ク

明治二十九年三月 法律 第四十四號 第四十五號

奈良縣大和國廣瀨郡及葛下郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北葛城郡ヲ置ク
奈良縣大和國式上郡、式下郡及十市郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ磯城郡ヲ置ク
奈良縣大和國葛上郡及忍海郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ南葛城郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル三重縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黒田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第四十六號

三重縣伊賀國阿拜郡及山田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ阿山郡ヲ置ク
三重縣伊賀國名張郡及伊賀郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ名賀郡ヲ置ク
三重縣伊勢國三重郡及朝明郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三重郡ヲ置ク
三重縣伊勢國奄藝郡及河曲郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ河藝郡ヲ置ク
三重縣伊勢國飯高郡及飯野郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飯南郡ヲ置ク
三重縣志摩國答志郡及英虞郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ志摩郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル靜岡縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黒田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第四十七號 (官報 三月三十日)

靜岡縣遠江國佐野郡及城東郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ小笠郡ヲ置ク
靜岡縣遠江國磐田郡及山名郡ヲ廢シ其ノ區域ト豐田郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(中泉町、梅原村、天龍村、長野村、袖浦村、十束村、井通村、池田村、富岡村、岩田村、廣瀬村、向笠村、大藤村、今井村、三川村、敷地村、二俣町、野部村、光明村、龍川村、山香村、佐久間村、浦川村、熊村、上阿多古村、下阿多古村)ト長上郡ニ屬セシ區域ノ一部(掛塚村)トヲ以テ磐田郡ヲ置ク
靜岡縣遠江國濱名郡ヲ廢シ其ノ區域ト長上郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(笠井町、有玉村、美島村、天王村、市野村、飯田村、河輪村、五島村、小野田村、中郡村、和田村、蒲村、芳川村、平貴村)ト敷知郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(濱松町、曳馬村、三方原村、天神町村、白脇村、淺場村、新津村、篠原村、舞阪町、新居町、吉津村、新所村、知波田村、入出村、和地村、吉野村、北庄内村、南庄内村、村柳村、雄踏村、神久呂村、入野村、伊佐見村、富塚村)ト豐田郡ニ屬セシ區域ノ一部(赤佐村、中瀬村、龍池村、豐西村、中ノ町村)トヲ以テ濱名郡ヲ置ク
靜岡縣遠江國引佐郡及鹿玉郡ヲ廢シ其ノ區域ト敷知郡ニ屬セシ區域ノ一部(西濱名村、東濱名村)トヲ以テ引佐郡ヲ置ク

靜岡縣駿河國安倍郡及有渡郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ安倍郡ヲ置ク
靜岡縣駿河國志太郡及益津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ志太郡ヲ置ク
靜岡縣伊豆國那賀郡ヲ廢シ其ノ區域ト賀茂郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(下田町、城東村、稻取村、下河津村、上河津村、稻梓村、稻生澤村、濱崎村、朝日村、竹麻村、南崎村、南中村、南上村、三坂村、三濱村、岩科村、松崎村)トヲ以テ賀茂郡ヲ置ク
靜岡縣伊豆國田方郡及君澤郡ヲ廢シ其ノ區域ト賀茂郡ニ屬セシ區域ノ一部(多賀村、網代村、宇佐美村、伊東村、小室村、上大見村、中大見村、下大見村、對島村、熱海町)トヲ以テ田方郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣 芳川顯正

法律第四十八號(官報 三月三十日)

滋賀縣近江國神崎郡ノ一部(葉枝見村)ヲ同縣同國愛知郡ニ編入ス
滋賀縣近江國伊香郡及西淺井郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ伊香郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル福島縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣 芳川顯正

法律第四十九號(官報 三月三十日)

福島縣磐城國菊多郡、磐前郡及磐城郡ヲ廢シ其ノ區域ト檜葉郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(川前村)トヲ以テ石城郡ヲ置ク

福島縣磐城國標葉郡ヲ廢シ其ノ區域ト檜葉郡ニ屬セシ區域ノ一部(久之濱村、大久村、廣野村、木戸村、龍田村、富岡村、上岡村、川内村)トヲ以テ標葉郡ヲ置ク
福島縣磐城國行方郡及宇多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ相馬郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル巖手縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣 芳川顯正

法律第五十號 (官報三月三十日)

巖手縣陸中國南巖手郡及北巖手郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ巖手郡ヲ置ク
巖手縣陸中國西和賀郡ヲ廢シ其ノ區域ト東和賀郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(黒澤尻町、鬼柳村、岩崎村、横川目村、藤根村、江釣子村、笹間村、飯豊村、二子村、立花村、更木村、中内村、谷内村、十二鎗村、小山田村)トヲ以テ和賀郡ヲ置ク
巖手縣陸中國東和賀郡ニ屬セシ區域ノ一部(相去村)ヲ同縣同國膽澤郡ニ編入ス
巖手縣陸中國西閉伊郡及南閉伊郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ上閉伊郡ヲ置ク
巖手縣陸中國東閉伊郡、中閉伊郡及北閉伊郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ下閉伊郡ヲ置ク
巖手縣陸中國南九戸郡及北九戸郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ九戸郡ヲ置ク

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル富山縣下郡分離及廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第五十一號 (官報三月三十日)

富山縣越中國上新川郡ノ一部(西水橋町、西三郷村、東三郷村、舟橋村、利田村、寺田村、五百石町、高野村、下段村、大森村、釜ヶ淵村、立山村、上段村、東谷村、柿澤村、大岩村、弓庄村、白萩村、音杉村、上市村、相ノ木村、宮川村、上條村、下條村、東水橋町、滑川町、南加積村、山加積村、中加積村、西加積村、北加積村、東加積村、早月加積村、濱加積村)ヲ以テ中新川郡ヲ置ク
富山縣越中國射水郡ノ一部(太田村、宮田村、窪村、佛生寺村、布勢村、神代村、十二町村、氷見町、加納村、上庄村、熊無村、速川村、久目村、阿尾村、殿田村、余川村、稻積村、碁石村、八代村、宇波村、女良村)ヲ以テ氷見郡ヲ置ク
富山縣越中國礪波郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(北山田村、山田村、南山田村、大鋸屋村、城端町、能美村、平村、上平村、利賀村、青島村、東山見村、雄神村、梅檀山村、梅檀野村、般若村、東般若村、般若野村、中田町、南般若村、北般若村、柳瀬村、太田村、中野村、油田村、庄下村、井波町、南山見村、井口村、高瀬村、中野村、種田村、福野町、南野尻村、廣塚村、野尻村、東野尻村、五鹿屋村、出町)ヲ以テ東礪波郡ヲ置キ其ノ區域ノ一部(石動町、宮島村、子撫村、南谷村、埴生村、北蟹谷村、南蟹谷村、東蟹谷村、殿波村、石黒村、西野尻村、福光町、西太美村、廣瀬村、廣瀬館村、太美山村、東太美村、吉江村、東石黒村、戸出町、津澤町、水島村、鷹栖村、高波村、林村、醍醐村、是戸村、小勢村、福田村、東五位村、立野村、山王村、福岡町、正得村、大瀧村、松澤村、若林村、荒川村、西五位村、五位山村、石堤村、赤丸村、國吉村)ヲ以テ西礪波郡ヲ置ク

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鳥取縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第五十二號 (官報 三月三十日)

鳥取縣因幡國邑美郡、法美郡及岩井郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ岩美郡ヲ置ク
鳥取縣因幡國八上郡、八東郡及智頭郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ八頭郡ヲ置ク
鳥取縣因幡國高草郡及氣多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ氣高郡ヲ置ク
鳥取縣伯耆國河村郡、久米郡及八橋郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東伯郡ヲ置ク
鳥取縣伯耆國汗入郡及會見郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ西伯郡ヲ置ク
附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鳥根縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第五十三號 (官報 三月三十日)

鳥根縣出雲國島根郡、秋鹿郡及意宇郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ八東郡ヲ置ク
島根縣出雲國出雲郡、楯縫郡及神門郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ簸川郡ヲ置ク
附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル熊本縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第五十四號 (官報 三月三十日)

熊本縣肥後國飽田郡及託麻郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飽託郡ヲ置ク
熊本縣肥後國山鹿郡及山本郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿本郡ヲ置ク
熊本縣肥後國菊池郡及合志郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ菊池郡ヲ置ク
附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹿兒島縣下國界並郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第五十五號 (官報 三月三十日)

鹿兒島縣日向國南諸縣郡及同縣大隅國東嶺縣郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ嶺縣郡ヲ置キ大隅國三屬ス

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡及谿山郡並同縣大隅國北大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿兒島郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國菱刈郡及同縣薩摩國北伊佐郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ伊佐郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國始良郡、桑原郡及西崎吹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ始良郡ヲ置ク

鹿兒島縣大隅國肝屬郡及南大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ肝屬郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國揖宿郡及類娃郡ヲ廢シ其ノ區域ト給黎郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(喜入村)トヲ以テ揖宿郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國川邊郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(川邊村、加世田村、東加世田村、西加世田村、勝目村、東南方村、西南方村)ト給黎郡ニ屬セシ區域ノ一部(知覽村)トヲ以テ川邊郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國日置郡及阿多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ日置郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國薩摩郡、高城郡、南伊佐郡及甌島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ薩摩郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國川邊郡ニ屬セシ區域ノ一部(硫黃島、黒島、竹島、口ノ島、臥蛇島、平島、中ノ島、惡石島、諏訪ノ瀬島、寶島)ヲ同縣大隅國大島郡ニ編入ス

附則
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル岡山縣兵庫縣境界變更並福岡縣大分縣境界變更法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長 伯爵 黒田清隆
内務大臣 芳川顯正

法律第五十六號(官報 三月三十日)

第一條 岡山縣及兵庫縣ノ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ

岡山縣美作國吉野郡石井村ヲ兵庫縣播磨國佐用郡ニ編入シ岡山縣美作國吉野郡讚甘村大字中山ヲ兵庫縣播磨國佐用郡江川村ニ編入ス

第二條 福岡縣及大分縣ノ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ

福岡縣豐前國上毛郡高濱村大字小祝ノ内山國川支流以東ヲ大分縣豐前國下毛郡中津町ニ編入ス

第三條 此ノ法律施行ノ爲メ縣ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係縣會ノ意見ヲ聞キ内務大臣之ヲ定メ村ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係町村會ノ意見ヲ聞キ其ノ關係縣知事協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第四條 衆議院議員及縣會議員ノ選舉及被選舉資格中其ノ年限ニ關スルモノハ此ノ法律ニ依レル

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル輸入棉花海關稅免除法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長 伯爵 黒田清隆
大藏大臣 子爵 渡邊國武

法律第五十七號 (官報 三月三十日)

外國ヨリ輸入スル棉花ハ明治二十九年四月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣子爵渡邊國武

法律第五十八號 (官報 三月三十日)

外國ヨリ輸入スル羊毛ハ明治二十九年四月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣子爵渡邊國武

法律第五十九號 (官報 三月三十日)

事業公債條例

第一條 事業公債ハ既設官線鐵道改良、北海道鐵道建設、製鋼事業、電話擴張ノ費途、葉煙草專賣資金

及國防事業ノ費用ニ充ツルカ爲證書額面壹億參千五百萬圓ヲ限リ漸次之ヲ募集ス
第二條 本公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トシ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定ム
第三條 本公債ニ關シ本條例ニ規定セザルモノハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ各條
項ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル獸疫豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

農商務大臣子爵榎本武揚

法律第六十號 (官報 三月三十日)

獸疫豫防法

第一條 此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽
- 三 氣腫疽
- 四 鼻疽及皮膚疽
- 五 傳染性胸膜肺炎
- 六 流行性齧口瘡
- 七 羊痘

八 豕虎列刺

九 豕羅斯疫

十 狂犬病

第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戸長又ハ之ニ準スヘキ者届出ヘシ

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條 獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖錮シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ検査委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官東京府ハ警視廳ニ依リテ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲割檢ヲ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第六條 所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ検査委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ聚留シタル場所、汽車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ検査委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ二人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一 牛疫、鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類
評價額二分ノ一

二 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類
評價額五分ノ三

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊
評價額五分ノ四

四 燒棄又ハ埋却シタル物品
評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金

ヲ下付セシ

- 一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品
- 二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品
- 三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病汚染ノ疑アル物品
- 四 第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品
- 五 第十五條ノ命令ニ違背シ検査ヲ受ケヌ又ハ輸入シタル獸類及物品
- 第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ 獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入、往來並病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得
- 第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ベシ
- 第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ検査ヲ行フコトヲ得
- 第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ検査ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得
- 第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ検査ヲ受ケヌ又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 獸類第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ
- 第十八條 第七條、第八條第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條 第二條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條 第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所ノ設立及位置並管轄區域ノ變更ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月二十九日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯耆黒田清隆
司法大臣 芳川顯正

法律第六十一號(官報三月三十日)

第一條 橫濱地方裁判所管内八王子區裁判所ヲ東京地方裁判所ノ管轄トス但シ此ノ法律施行前ニ於テ八王子區裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ橫濱地方裁判所ノ管轄トス

第二條 札幌地方裁判所管内北見國宗谷郡稚内村ニ稚内區裁判所ヲ置ク

廣		島		宮	
廣	山	廣	山	福	島
吳	竹	柳	德	郡	平
安藝	原	井	山	山	郡
安藝	安藝	津	周	磐	磐
渡子島村	賀茂郡ノ内	都波郡	大島郡	安藝郡ノ内	安藝郡ノ内
瀬戸島村	賀茂郡ノ内	熊毛郡	玖珂郡ノ内	郡山町	郡山町
本庄村	賀茂郡ノ内	柳井村	柳井津町	山野井村	山野井村
倉橋島村	賀茂郡ノ内	伊陸村	余田村	三春町	三春町
上瀧川島村	賀茂郡ノ内	神代村	伊陸村	田村郡ノ内	田村郡ノ内
下瀧川島村	賀茂郡ノ内	日積村	伊陸村	七郷村	七郷村
内海村	賀茂郡ノ内	鳴門村	伊陸村	小野新町村	小野新町村
野路村	賀茂郡ノ内	古開作村	伊陸村	二瀬村	二瀬村
三津口村	賀茂郡ノ内	新庄村	伊陸村	谷田川村	谷田川村
				流根村	流根村
				夏井村	夏井村
				飯豊村	飯豊村
				大越村	大越村
				大磯村	大磯村
				丸守村	丸守村
				桑野村	桑野村
				多田野村	多田野村
				永盛村	永盛村
				片平村	片平村
				小原田村	小原田村
				富久山村	富久山村
				總積村	總積村
				中妻村	中妻村
				澤石村	澤石村
				常葉村	常葉村
				常葉村	常葉村

函		城		山	
札	秋	盛	山	山	山
帆	田	岡	形	形	形
稚	本	秋	宮	遠	酒
内	莊	田	古	野	田
北	羽	羽	陸	陸	前
見	後	後	中	中	前
宗	山	山	東	西	東
谷	利	利	閉	閉	閉
郡	毛	毛	伊	伊	伊
枝	郡	郡	南	南	南
幸	上	上	秋	秋	秋
利	川	川	田	田	田
況	郡	郡	市	市	市
郡	中	中	南	南	南
禮	川	川	秋	秋	秋
文	郡	郡	田	田	田
郡	天	天	市	市	市
	鹽	鹽	南	南	南
	郡	郡	秋	秋	秋
	菅	菅	田	田	田
	前	前	市	市	市
	郡	郡	南	南	南
	留	留	秋	秋	秋
	前	前	田	田	田
	郡	郡	市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋
			田	田	田
			市	市	市
			南	南	南
			秋	秋	秋

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方稅經濟ニ於テ臨時土木費ノ爲ニ起債及地租制限外賦課ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月三十日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
大藏大臣子爵渡邊國武
内務大臣 芳川顯正

法律第六十二號(官報 三月三十一日)

第一條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還ノ初期ハ三年以内トスヘシ
第二條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要スル場合ニ於テ府縣知事必要ナリト認ムルトキハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ地租三分一ヲ超過スル地方稅ヲ土地ニ賦課スルコトヲ得
第三條 第一條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其ノ府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其ノ年度初現在高ノ三分一マテ借入ルルコトヲ得但シ本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス
前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常置委員ヲシテ府縣會ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第四條 第一條ノ認可ヲ得ムルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル公債募集ノ方法又ハ借入ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
第六條 明治二十三年法律第三號及法律第七十四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年一月二十日法律第三號ハ地方稅經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件、同年八月二十日法律第七十四號ハ同上法律第三號府縣制施行ノ地方ニ限リ廢止等ノ件ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆

明治二十九年三月三十日

法律第六十三號(官報 三月三十一日)

第一條 臺灣總督ハ其ノ管轄區域内ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スルコトヲ得
第二條 前條ノ命令ハ臺灣總督府評議會ノ議決ヲ取り拓務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ
臺灣總督府評議會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條第一項ノ手續ヲ經スシテ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得
第四條 前條ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請ヒ且之ヲ臺灣總督府評議會ニ報告スヘシ

勅裁ヲ得サルトキハ總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ
 第五條 現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ其ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモ
 ノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第六條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ滿三箇年ヲ經タルトキハ其ノ效力ヲ失フモノトス

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル醬油稅則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月六日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
大藏大臣 子爵 渡邊國武

法律第六十四號 (官報 四月七日)

明治二十一年勅令第四十七號 醬油稅則中營業稅ニ關スル事項ヲ刪除ス

附則

○ 此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル牛馬賣買免許稅規則其ノ他廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月六日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
大藏大臣 子爵 渡邊國武

法律第六十五號 (官報 四月 七日)

明治五年第三百三十號 布告牛馬賣買免許稅規則、明治八年第二十七號 布告車稅規則、明治十六年第十三號 布告船稅規則、明治十八年第十一號 布告菓子稅則ヲ廢止ス

附則

此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス但シ明治二十九年第二期菓子製造税ハ仍菓子税則ノ規定ニ依ル

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル馬匹ノ調査及検査ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月六日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
陸軍大臣 侯爵大山 巖

法律第六十六號 (官報 四月七日)

- 第一條 戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ
- 第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ検査ハ一年一回ヲ超ユルコトナシ
- 第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ
- 第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受クヘシ
- 第五條 徵發令ニ依リ徵發ノ免除ヲ受クヘキ馬匹ニハ此ノ法律ヲ適用セス
- 第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域、時期、馬匹ノ種類、第二條ノ届出事項及第四條ノ手當、旅費ノ金額ニ關スル規程並此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ

市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ區長、戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月六日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
逓信大臣 白根專一

法律第六十七號 (官報 四月七日)

船舶検査法

- 第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除外此ノ法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ
 - 一 海軍艦船
 - 二 登簿噸數十五噸未満若ハ積石數百五十石未満ノ帆船
 - 三 湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル帆船
 - 四 櫓槳ノミヲ以テ航行スル船舶
- 第二條 此ノ法律ニ依リ検査ヲ受クヘキ汽船ハ遠洋航船、近海航船、沿海航船、平水航船ノ四種トシ帆船ハ遠洋航船、近海航船ノ二種トス
- 第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 登簿噸數十五噸以上若ハ積石數百五十石以上ノ船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶司檢所之ヲ行ヒ登簿噸數十五噸未滿ノ汽船ノ検査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳之ヲ行フ

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間ヲ超エテ航行シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヰス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有效期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受ケルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十七條 此ノ法律ハ外國ノ船籍ニ屬スル船舶ヲ借入レ帝國各港ノ間又ハ帝國ト外國トノ間ニ於テ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶職員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十九年四月六日

法律第六十八號 (官報四月七日)

船舶職員法

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
遞信大臣 白根專一

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ
 船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ
 第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス
 第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種一等運轉士
 - 甲種二等運轉士
 - 乙種船長
 - 乙種一等運轉士
 - 乙種二等運轉士
 - 丙種船長
 - 丙種運轉士
 - 機關長
 - 一等機關士
 - 二等機關士
 - 三等機關士
- 第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル
 第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス
 海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用井シテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
 - 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者
 - 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者
- 第七條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得
 甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
 機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 第八條 左ニ掲クル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乗組マシメサル者
 - 二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者
 - 三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者
 - 四 海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
 - 五 海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者
- 第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第二號表

船航	水平	船航	船
船	汽	船	二百噸以上
百噸以上	百噸未滿	機一	等
機船	機船	機二	等
機船	機船	機三	等
機船	機船	機四	等
機船	機船	機五	等
機船	機船	機六	等
機船	機船	機七	等
機船	機船	機八	等
機船	機船	機九	等
機船	機船	機十	等

新舊免狀對照表

舊免狀	新免狀
甲種船長	甲種船長
甲種一等運轉手	甲種一等運轉士
甲種二等運轉手	甲種二等運轉士
甲種一等機關手	甲種一等運轉士
甲種二等機關手	甲種二等運轉士
乙種船長	乙種船長
假免狀船長	乙種船長若ハ丙種船長
乙種一等運轉手	乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士
假免狀一等運轉手	乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士
乙種二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士
假免狀二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士
乙種一等機關手	乙種一等運轉士
假免狀一等機關手	乙種一等運轉士
乙種二等機關手	乙種二等運轉士
假免狀二等機關手	乙種二等運轉士
小形船船長	乙種二等運轉士
小形船機關手	三等機關士

〔參照〕

明治九年六月第八十二號布告ハ西洋形船船長運轉手機關手試驗規則、同年六月廿九日第九十四號布告ハ同規則追加、同十三年五月第二十八號布告ハ海軍非職准士官以上官民ノ依頼ニ應シ西洋形船舶ノ乗組員ト爲ル者ニ關スル件、同十四年十二月二日第七十五號布告ハ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海員懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月六日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
 遞信大臣 白根專一

法律第六十九號 (官報 四月七日)
 海員懲戒法

第一章 總則

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ
- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 - 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
 - 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助ス

ルノ方法ヲ盡サザルトキ

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 免狀行使ノ禁止
- 二 免狀行使ノ停止
- 三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

- 一 確定裁決
- 二 時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ逕信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ二人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及

審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定錨場ヲ管轄スル地方海員

審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ

近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申

請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出

スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以

テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所

ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得

サルトキ

二 二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判

ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ

理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ
前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得
受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出し審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ
審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開廷中秩序ノ維持ハ審判所長ニ屬ス審判所長ハ審判ヲ妨グル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判所長之ヲ爲ス
審判官及理事官ハ審判所長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審

判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス
被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサル
ノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得
第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タズ直ニ高等
海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得
第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス
闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ
原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘ
控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取
上ケ遞信省ニ送付スヘシ
免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿
了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ
其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出
サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海
員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス
附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ
此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノ

ハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル移民保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
外務大臣 伯爵 陸奥宗光
内務大臣 芳川顯正

法律第七十號 (官報 四月八日)
移民保護法

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ労働ニ従事スルノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ
前項労働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス
渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル一人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得
保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ帝國ニ於テ主タル營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス
前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行為法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖既ニ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項契約ニ必要ナル條件ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 移民取扱人ハ前條認可ヲ受ケタル書面契約ニ定ムル所ノ渡航周旋料若ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日内ニ移民ヲ出發セシメサルドキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第三章 保證金

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ト下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ノ取消又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 罰則

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ詐リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第五章 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受クルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セサルトキト雖其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス
明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 芳川顯正

法律第七十一號 (官報四月八日)

河川法

- 第一章 總則
- 第二章 河川ノ管理
- 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
- 第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等
- 第五章 監督及強制手續
- 第六章 訴願及訴訟
- 第七章 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタ

ル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得 他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ 臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム 主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危険切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルト

キハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得
災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス
工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理若ハ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直

接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヨリ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十五條 依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供給シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

シ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ゾ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セ

シムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日

ヨリ二箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
陸軍大臣 侯爵大山 巖
大藏大臣 子爵渡邊國武
逓信大臣 白根 專一

法律第七十二號 (官報四月八日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

- 一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道
- 一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉、佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道
- 一 線中千葉縣下曾我町ヨリ木更津ニ至ル鐵道
- 一 京都府下舞鶴ヨリ福井縣下小濱ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道
- 一 兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道線中兵庫縣下姫路ヨリ笹山ヲ經テ京都府下園部ニ至ル鐵道
- 一 香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道
- 一 福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道中大分縣下柳ヶ浦ヨリ大分ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
陸軍大臣 侯爵大山 巖
大藏大臣 子爵渡邊國武
逓信大臣 白根 專一

法律第七十三號 (官報四月八日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

- 一 宮城縣下石ノ卷ヨリ小午田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道線中宮城縣下石ノ卷ヨリ同縣下溫泉村鍛冶屋澤ニ至ル鐵道
- 政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ本線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ其ノ會社ニ於テ之カ敷設ヲ爲ササルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲相當ノ條件ヲ附スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
陸軍大臣 侯爵大山 巖

大藏 大臣子爵渡邊國武
遞信 大臣 白根專一

法律第七十四號 (官報四月八日)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道線中兵庫縣下和田山ヨリ湯島ニ至ル鐵道
政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ兵庫縣下和田山ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル豫定鐵道線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ其ノ會社ニ於テ之カ敷設ヲ爲ササルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲相當ノ條件ヲ附スヘシ

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
陸軍 大臣侯爵大山 巖
大藏 大臣子爵渡邊國武
遞信 大臣 白根專一

法律第七十五號 (官報四月八日)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

ルコトヲ得

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道線中鳥取縣下米子ヨリ島根縣下今市ニ至ル鐵道
政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ鳥取縣下米子ヨリ島根縣下濱田ニ至ル豫定鐵道線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ其ノ會社ニ於テ之カ敷設ヲ爲ササルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲相當ノ條件ヲ附スヘシ

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
陸軍 大臣侯爵大山 巖
大藏 大臣子爵渡邊國武
遞信 大臣 白根專一

法律第七十六號 (官報四月八日)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道線中熊本縣下熊本ヨリ大津ニ至ル鐵道
一 同鐵道線中大分縣下大分ヨリ竹田ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ該豫定鐵道線路ノ全部ノ敷設貫通ヲ妨クルノ虞ナカラシメ
ンカ爲相當ノ條件ヲ附スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月七日

內閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
陸軍大臣 侯爵 大山 巖
大藏大臣 子爵 渡邊 國武
逓信大臣 白根 專一

法律第七十七號 (官報 四月八日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可ス
ルコトヲ得

一 香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道線中高知縣下山田野地ヨリ須崎ニ至ル
鐵道

一 香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道ニ德島縣下德島ヨリ接續スル鐵道線中
德島縣下德島ヨリ川田ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ德島縣下德島ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル聯續線路
ノ全部ノ敷設貫通ヲ妨クルノ虞ナカラシメンカ爲相當ノ條件ヲ附スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月九日

內閣總理大臣 侯爵 伊藤博文

法律第七十八號 (官報 四月十日)

第一條 臺灣總督府條例施行前臺灣總督府所屬ノ雇員ニシテ官吏ノ職務ニ從事シタル者ハ官吏恩
給法及官吏遺族扶助法ノ關係ニ於テハ文官判任以上ノ者ト同視シテ處分ス但シ同雇員タリシ年
月數ニ對シテハ官吏恩給法第十二條第二項ノ一及官吏遺族扶助法第二條ヲ適用セス

第二條 現ニ恩給ヲ受クル者ニシテ第一條ニ該當スルトキハ同雇員トシテ勤務シタル年月數ハ官
吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ定ムル在官年數ニ通算セス又同雇員トシテ受ケタル俸給額ノ爲ニ
既定ノ恩給額ニ異動ヲ及ホサス

前項ニ掲クル者官吏恩給法第三條ニ該當スル場合ニハ雇員俸給額ニ依リ算出シタル增加恩給ヲ
給ス

第三條 現ニ恩給ヲ受クル者ニシテ第一條ニ掲クル雇員タル者官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該
當スルトキハ雇員ノ俸給額ニ依リ算出シタル扶助料ヲ其ノ遺族ニ給ス

〔參照〕

法律第四十三號官吏恩給法(明治二十三年六月二十一日官報)抄錄
第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ增加恩給ヲ
給ス

- 一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
 - 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
- 第十二條第二項
左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
- 一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニ在ラス
- 法律第四十四號官吏遺族扶助法(明治二十三年六月二十一日官報抄録)
第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ
- 第四條第二項
公務ノ爲メ受ケタル傷疾ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ疾病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ冥婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官更恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル葉煙草專賣資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第七十九號(官報四月十一日)

葉煙草專賣資金會計法

第一條 葉煙草專賣法ニ依リ政府ニ於テ收納スル葉煙草賠償ノ爲葉煙草專賣資金ヲ置キ特別會計ヲ設置ス

第二條 每會計年度ニ於テ其ノ歲入ノ葉煙草賠償金ニ超過スルモノハ同年度一般ノ歲入ニ編入シ

資金ハ翌年度ニ繰越スヘシ

第三條 政府ハ毎年葉煙草專賣資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第四條 葉煙草專賣資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 此ノ法律ハ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年四月十一日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵露陸與宗光

法律第八十號(官報四月十三日)

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

第一條 清國及朝鮮國駐在ノ領事ハ在留ノ帝國臣民該地方ノ安寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ壞亂セムトスル者アルトキハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若期限内退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立ツルトキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ領事ヲ經テ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セス

第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若ハ之ヲ取消スヘキ命令ヲ爲スベシ其ノ命令ハ確定ノモノトス

第五條 在留ヲ禁止セラレタル者營業上若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトキハ領事ハ其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限内再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其ノ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第七條 在留禁止ヲ命セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ領事ハ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依リ該命令ヲ取消スコトヲ得

第八條 退去期限若ハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附則

第九條 明治十六年第九號布告及明治十八年第二十六號布告ハ此ノ法律實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治十六年三月第九號布告ハ清國及朝鮮國在留日本人取締規則同十八年八月第二十六號布告ハ同規則中改正ノ件ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方學事通則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十四日

內閣總理大臣 侯爵伊藤博文
文部大臣 侯爵西園寺公望

法律第八十一號 (官報 四月十五日)

明治二十三年法律第八十九號地方學事通則中左ノ通改正ス

第九條第三項中「廢設並支消費却交換讓渡質入書入」トアルヲ「設置及處分」ト改ム

第十條第三項中「府縣郡」ノ下ニ「市町村村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區」ノ二十

〔參照〕

法律第八十九號地方學事通則(明治二十三年十月三日官報)抄録

第九條第三項

學校基本財産ノ廢設並支消費却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條第三項

府縣郡ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財産トナスコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

內閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第八十二號 (官報 四月二十日)

日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

明治二十九年四月 法律 第八十二號

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ二十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付キ一箇トス但シ十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フ

他人ノ代理ヲ爲ス者ハ五人以上ヲ代理スルコトヲ得ス又其ノ株數ハ總株數ノ十分ノ二以上ヲ超過スルコトヲ得ス

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債

アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル不動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣都市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣都市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受タルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ日本銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第二十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高二應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許

ヲ稟請スヘシ

- 第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ
 - 第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス
 - 第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス
- 設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第八十三號 (官報 四月二十日)

農工銀行法

第一章 總則

- 第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス
- 第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得
- 第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス
株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣都市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

第二章 營業

- 第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 - 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト
 - 二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
 - 三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト
 - 四 二十八以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト
- 第七條 前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル
 - 一 開墾、排水、灌溉及耕地土質ノ改良
 - 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
 - 三 殖林事業
 - 四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入
 - 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
 - 六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
 - 七 前各項ノ外農工業ノ改良

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シタル地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條 農工銀行ハ少クとも年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十二年法律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテ十四日以

内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

〔參照〕

第八十二號

第三十六號布告別法(明治十三年七月十七日抄録)

第二百四條 公債證券地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證券ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

明治二十三年八月九日法律第六十號八商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ナリ

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

法律第八十四號(官報四月二十日)

農工銀行補助法

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉地池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以內トス但シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以內沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以內ヲ毎年交付ス但シ農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ五箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ルルモノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

法律第八十五號 (官報 四月二十日)

銀行合併法

第一條 同一ノ法律ニ依リテ設立シタル銀行營業ノ各株式會社ハ左ノ方法ニ依リ合併スルコトヲ得

第一 會社其ノ資産及負債ノ全部ヲ以テ他ノ會社ニ合併スルコト

第二 二箇以上ノ會社合併シテ更ニ一ノ會社ヲ設立スルコト

第二條 前條第一ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ニ於テ合併ニ關スル事項ヲ決議シ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

前項株主總會ノ招集ハ少クトモ會日ノ三十日前ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ノ決議ヲ取リタル後各會社株主ノ聯合總會ヲ開キ合併ノ決議ヲ爲シ更ニ設立スヘキ會社ノ定款ヲ議定シ各會社取締役ノ連署ヲ以テ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

聯合株主總會ニ於テハ更ニ設立スヘキ會社ノ取締役及監査役ヲ選定ス

前條第二項ノ規程ハ本條ノ株主總會ニモ亦之ヲ適用ス

第四條 株主總會及聯合株主總會ノ決議方法ハ商法第二百三條ノ規程ニ依ル
聯合株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇トス但シ各會社ノ定款ニ於テ議決權ノ制限
ヲ設ケタルトキハ其ノ制限ハ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ對シテノミ之ヲ適用シ且各定
款ノ制限同シカラサルトキハ株主ニ對シ最利益アル制限ノ規程ヲ適用ス

各會社ノ株式ノ金額相同シカラサルトキハ其ノ最少額ノ株式金額ヲ標準トシテ其ノ他ヲ改算シ
議決權ノ數ヲ定メ毎株主持株ノ總金額ニ於テ端數ヲ生スルトキハ之ヲ算入セス

第五條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社ハ合併スヘキ他ノ會社ノ株主ノ求ニ應シ商法第二
百二十二條ニ掲ケタル書類ノ展閱ヲ許ス義務アリ

第六條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社營業所ノ裁判所ハ合併スヘキ一方ノ會社ノ總株金
ノ少クトモ五分ノ一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ一八又ハ數人ノ官吏ニ他ノ一方ノ會社ノ業務ノ
實況及財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第七條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ取締役ヨリ之ヲ
裁判所ニ届出ヘシ

第八條 主務省及裁判所ハ合併ノ實況ヲ監視スル權アリ

第九條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併ニ因リ消滅
スヘキ會社ハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其ノ業務ヲ止
メ且少クトモ三回之ヲ公告スヘシ取締役之ニ拘ラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此力爲其ノ全財
産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十條 合併セムトスル會社ハ公告ヲ爲シテ聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ノ會日前一箇月

ヲ豫メサル期間株式ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル場合ニ在テハ聯合株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタ
ル日ヨリ第十四條ニ依リ登記ヲ受ケルマテノ間ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効ナリ

第十一條 合併ノ認可アリタルトキハ取締役ハ合併ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且合併ニ對シ異
議アル者ハ或ル期間内ニ會社ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三十日ヲ下
ルコトヲ得ス

前項ノ通知ニハ合併セムトスル各會社ノ財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十二條 前條ニ掲ケタル期間内ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス
期間内ニ異議ヲ申出タル債權者アルトキハ會社ハ直ニ其ノ債務ヲ辨償シ若ハ之ニ擔保ヲ供シテ
其ノ異議ヲ取除クコトヲ要ス

第十三條 會社ハ第十一條ノ期間ヲ經過シ且有效ニ申出タル債權者ノ異議ヲ取除キ又訴訟中ノ債
務額ハ之ヲ辨償シ若ハ供託シタル後ニ非サレハ合併ヲ決行スルコトヲ得ス但シ總テノ債權者ニ
於テ異議ナキコトヲ明示シタルトキハ該期間内ト雖合併ヲ決行スルコトヲ得

第十四條 合併ヲ決行シタルトキハ十四日內ニ登記ヲ受ケ同時ニ之ヲ株主ニ通知シ且地方長官ヲ
經由シテ主務省ニ届出ヘシ

登記及公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 合併後存留スル會社ニ在テハ
- 一 合併認可及合併決行ノ年月日
- 二 既ニ登記ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ生シタルモノ
- 三 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名
- 二 合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ在テハ商法第六十八條第二項(第八號ヲ除ク)ニ掲ケタ

ル事項ノ外仍左ノ二項

一 合併認可及合併決行ノ年月日
 二 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名

第十五條 會社支店アルトキハ其ノ所在地ニ於テモ亦登記ヲ受クヘシ
 第十六條 第十四條ノ期間内ニ登記ヲ受ケサルトキハ此カ爲會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ取締役ハ其ノ全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ
 第十七條 合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第十八條 國立銀行ハ第一條第二ノ方法ニ依リ合併スルコトヲ得ス
 第十九條 第二條第一項ノ決議方法ハ國立銀行ニ在テハ國立銀行條例第六十九條ノ規程ニ依ル
 第二十條 合併ニ因リ消滅シタル國立銀行ニ於テ發行シタル紙幣ハ合併後存留スル國立銀行ニ於テ自己ノ發行シタル紙幣ト俱ニ國立銀行條例第一百二十二條ノ方法ニ依リ其ノ營業年限内ニ悉皆消却スヘシ
 第二十一條 合併ノ認可アリタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ノ訴訟ハ合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス
 民事訴訟法第一編第三章第五節當事者ノ死亡ニ因レル訴訟手續ノ中斷ニ關スル規程ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十二條 取締役第十四條ノ登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ例ニ依リ第十一條ノ通知及催告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十九條ノ例ニ依リテ處分ス
 (參照)
 第六號布告國立銀行條例(明治九年八月一日抄錄)

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主總席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其議案シタル株主總員ノ同意セル發售投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ
 第七十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘシ
 トス但其取扱手續ハ大藏省ノ指定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ
 一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏省ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限内之ヲ定期預金トナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ
 一 各國立銀行ハ每季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(即チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ
 一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ビ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏省ニ呈シテ之カ與書證印ヲ受クヘシ
 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ
 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直テニ其銀行ニ還付スヘシ

法律第三十二號商法(明治二十三年四月二十六日官報)抄錄
 第二百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テハ決議ヲ爲スニハ第六十四條ニ定メタル決議ノ方法ニ依ル
 第二百五十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス
 第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目録見書、定款、設立免許書、總會ノ決議書、每事業年度ノ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息及ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當若クハ不動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備置キ、通常ノ取引時間中株主及ヒ會社ノ債權者ノ求ニ應ジ展開ヲ許ス義務アリ
 第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金庫、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ
 第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ願未及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス
 調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス
 第二百五十六條 業務摘當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル
 第一 本章ニ定メタル登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ

- 第二 登記前ニ事業ニ着手シタルトキ
- 第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル
- 第一 第二百四十三條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル岐阜縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵板垣退助

法律第八十六號 (官報 四月二十日)

岐阜縣美濃國厚見郡及各務郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(木田村、下尻毛村、黒野村、下鶉飼村、御望村、洞村、交人村、折立村、今川村、古市場村、安食村、彦坂村、佐野村、石谷村、岩利村、打越村、城田寺村、上土居村、椿洞村、正木村、鷺山村、下土居村、長良村、福光村、雄總村、志段見村、古津村、則武村)トヲ以テ稻葉郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國羽栗郡及中島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ羽島郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國海西郡及下石津郡ヲ廢シ其ノ區域ト安八郡ノ一部(今尾町、高田村、三郷村、佛師川村、平原村、土倉村、脇野村、西島村)トヲ以テ海津郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國多藝郡及上石津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ養老郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國池田郡ヲ廢シ其ノ區域ト大野郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(揖斐町、北方村、上南方村、房島村、若松村、極樂寺村、清水村、松山村、瀬古村、牛洞村、中之元村、豐木村、稻富村、上秋村、古川村、寺内村、稻畑村、黒野村、六里村、麻生村、相羽村、下方村、公郷村、大友斐村、小友斐村、領家村、杉野村、加納村、上磯

村、郡家村、本莊村、下磯村、西座倉村、下座倉村、五ノ里村、下南方村、長瀬村、岐禮村、高科村、名禮村、徳積村、大洞村、深坂村、横藏村)トヲ以テ揖斐郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國本巢郡及席田郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(河渡村、寺田村、曾我屋村、一日市場村、七郷村、中西郷村、上西郷村、小野村、中村、網代村)ト大野郡ニ屬セシ區域ノ一部(政田村、淺木村、温井村、海老村、下福島村、唐西木村、森村、七崎村、田ノ上村、宮田村、大日村、居食村、古橋村、呂久村、中宮村、横屋村、寶江村、西根尾村)トヲ以テ本巢郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國山縣郡ニ方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(栗野村、岩崎村、三田洞村)ヲ編入ス

附則
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル愛媛縣下郡廢置法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年四月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵板垣退助

法律第八十七號 (官報 四月二十日)

愛媛縣伊豫國温泉郡、久米郡、風早郡及和氣郡ヲ廢シ其ノ區域ト下浮穴郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(三内村、南吉井村、浮穴村、拜志村、荏原村、阪本村)ト伊豫郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(垣生村、余土村)トヲ以テ温泉郡ヲ置ク

愛媛縣伊豫國越智郡及野間郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ越智郡ヲ置ク

愛媛縣伊豫國周布郡及桑村郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ周桑郡ヲ置ク

愛媛縣伊豫國伊豫郡ニ屬セシ區域ノ一部(南山崎村、北山崎村、郡中村、郡中町、南伊豫村、北伊豫村、岡田村、松前村)ト下浮穴郡ニ屬セシ區域ノ一部(原町村、砥部村、廣田村、出淵村、中山村、佐禮谷村、上灘村、下灘村)トヲ以テ伊豫郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所管轄ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

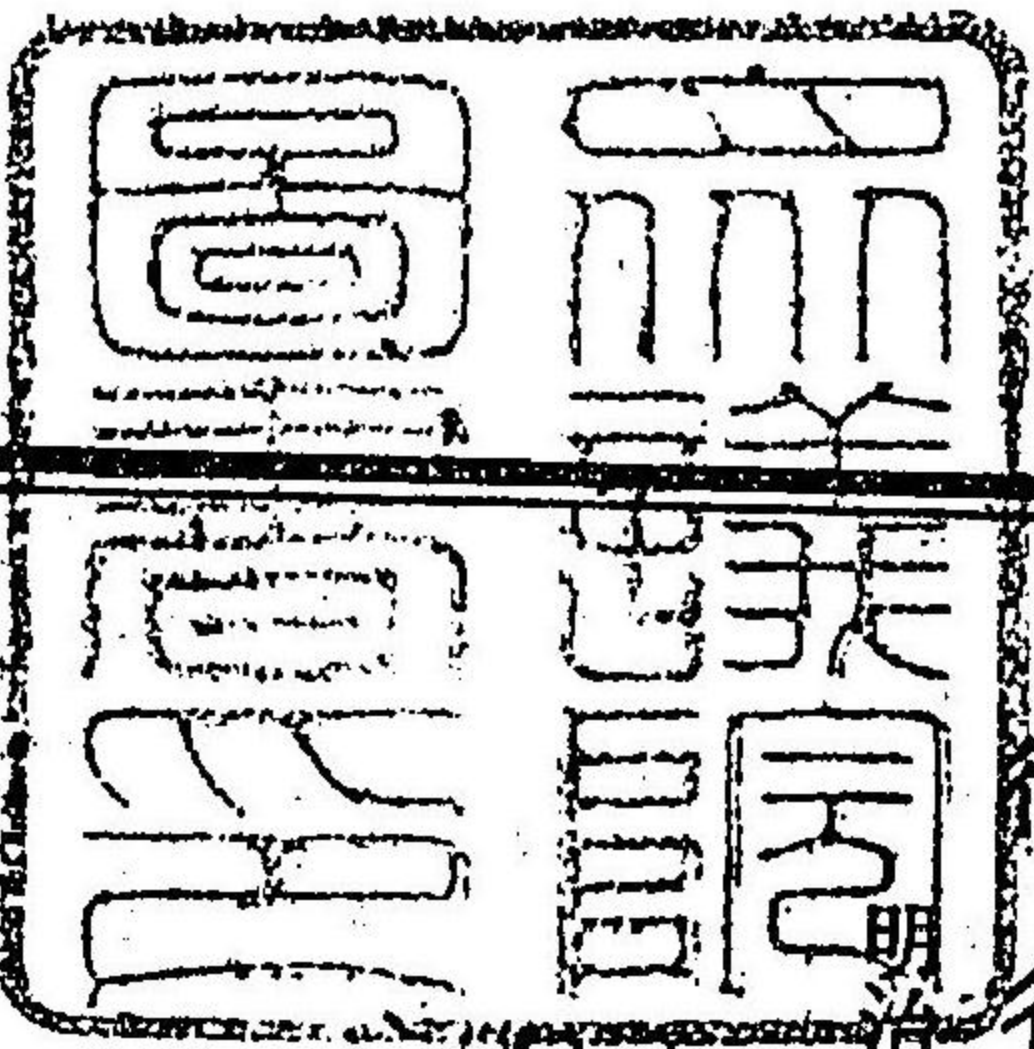
明治二十九年四月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
司法大臣 芳川顯正

法律第八十八號(官報四月二十日)

第一條 東京地方裁判所管內京橋區裁判所、芝區裁判所、麴町區裁判所、下谷區裁判所、本所區裁判所ヲ廢シ更ニ東京區裁判所ヲ設置シ從前各區裁判所ノ管轄區域ヲ以テ東京區裁判所ノ管轄トス
第二條 東京區裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ東京區裁判所開廳マテハ仍從前ノ各區裁判所ヲシテ之ヲ管轄セシム

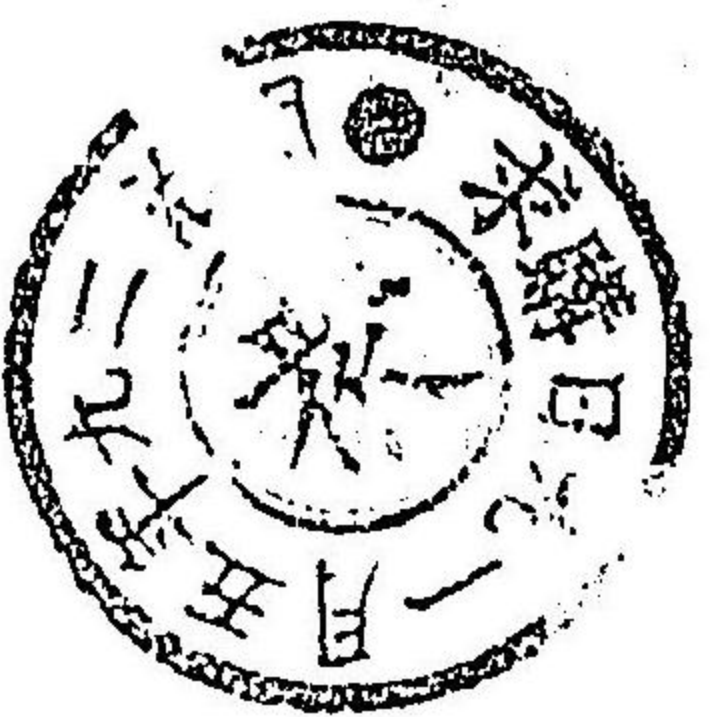
(法律第八十九號ハ號外ト爲シ臨時發刊セリ)



御名 御璽

明治二十九年四月二十三日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
海軍大臣 侯爵西鄉從道
陸軍大臣 侯爵大山 巖
農商務大臣 子爵榎本武揚
內務大臣 伯爵板垣退助
外務大臣 伯爵陸奧宗光
大藏大臣 子爵渡邊國武
司法大臣 芳川顯正
文部大臣 侯爵西園寺公望
逓信大臣 白根專一
拓殖務大臣 子爵高島鞆之助

法律第八十九號(官報四月二十七日)

民法第一編第二編第三編別冊ノ通定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第二十八號民法財産編財産取得編債權擔保編證據編ハ此法律發布ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

民法

第二編 總則

第一章 人

第一節 私權ノ享有

第二節 能力

第三節 住所

第四節 失踪

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第二節 法人ノ管理

第三節 法人ノ解散

第四節 罰則

第三章 物

第四章 法律行為

第一節 總則

第二節 意思表示

第三節 代理

第四節 無效及ヒ取消

第五節 條件及ヒ期限

第五章 期間

第六章 時效

第一節 總則

第二節 取得時效

第三節 消滅時效

第二編 物權

第一章 總則

第二章 占有權

第一節 占有權ノ取得

第二節 占有權ノ效力

第三節 占有權ノ消滅

第四節 準占有

第三章 所有權

第一節 所有權ノ限界

第二節 所有權ノ取得

第三節 共有

第四章 地上權

第五章 永小作權

第六章 地役權

第七章 留置權

第八章 先取特權

第一節 總則

第二節 先取特權ノ種類

第一款 一般ノ先取特權

第二款 動産ノ先取特權

第三款 不動産ノ先取特權

第三節 先取特權ノ順位

第四節 先取特權ノ效力

第九章 質權

第一節 總則

第二節 動産質

第三節 不動産質

第四節 權利質

第十章 抵當權

第一節 總則

第二節 抵當權ノ效力

第三節 抵當權ノ消滅

第三編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第二節 債權ノ效力

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第二款 不可分債務

第三款 連帶債務

第四款 保證債務

第五款 債權ノ讓渡

第六款 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第二款 相殺

第三款 更改

第四款 免除

第五款 混同

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第二款 契約ノ效力

第三款 契約ノ解除

第二節 贈與

第三節 賣買

第一款 總則

第二款 賣買ノ效力

第三款 買戻

第四節 交換

- 第五節 消費貸借
- 第六節 使用貸借
- 第七節 質貸借
 - 第一款 總則
 - 第二款 質貸借ノ效力
 - 第三款 質貸借ノ終了
- 第八節 雇傭
- 第九節 請負
- 第十節 委任
- 第十一節 寄託
- 第十二節 組合
- 第十三節 終身定期金
- 第十四節 和解
- 第三章 事務管理
- 第四章 不當利得
- 第五章 不法行為

民法

第一編 總則

第一章 人

第一節 私權ノ享有

第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

第二條 外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除外私權ヲ享有ス

第二節 能力

第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第四條 未成年者カ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行為ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條 法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財産ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メシテ處分ヲ許シタル財産ヲ處分スル亦同シ

第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ未成年者カ未タ其營業ニ堪ヘサル事跡アルトキハ其法定代理人ハ親族編ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戶主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

第九條 禁治産者ノ行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 準禁治産者カ左ニ掲ケタル行為ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト
 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
 四 訴訟行爲ヲ爲スコト
 五 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
 六 相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト
 七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
 八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト
 九 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲ爲スコト
 裁判所ハ場合ニ依リ準禁治産者カ前項ニ掲ケサル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十三條 第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ準用ス

第十四條 妻カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 第十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコト
 二 贈與若クハ遺贈ヲ受諾シ又ハ之ヲ拒絕スルコト
 三 身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト
 前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十五條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有ス

第十六條 夫ハ其與ヘタル許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得但其取消又ハ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

- 一 夫ノ生死分明ナラサルトキ
- 二 夫カ妻ヲ遺棄シタルトキ
- 三 夫カ禁治産者又ハ準禁治産者ナルトキ
- 四 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラレタルトキ
- 五 夫カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ在ルトキ
- 六 夫婦ノ利益相反スルトキ

第十八條 夫カ未成年者ナルトキハ第四條ノ規定ニ依ルニ非サレハ妻ノ行爲ヲ許可スルコトヲ得ス

第十九條 無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一个月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス

無能力者カ未ダ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ爲スモ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對シテハ其權限内ノ行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲スコトヲ得

特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

準禁治産者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得テ其行爲ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治産者又ハ妻カ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

第二十條 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用井タルトキハ其行爲ヲ取消スコトヲ得

トヲ得ス

第三節 住所

第二十一條 各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス

第二十二條 住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス

第二十三條 日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問ハス日本ニ於ケル居所ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其住所ノ法律ニ依ルヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第二十四條 或行爲ニ付キ假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之ヲ住所ト看做ス

第四節 失踪

第二十五條 從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財産ノ管理人ヲ置カサリシトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得本人ノ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキ亦同シ

本人カ後日ニ至リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ其管理人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スルコトヲ要ス

第二十六條 不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第二十七條 前二條ノ規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理スヘキ財産ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得

第二十八條 管理人カ第三百三條ニ定メタル權限ヲ超ニル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ

得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ニル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ

第二十九條 裁判所ハ管理人ヲシテ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得

第三十條 不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

戰地ニ臨ミタル者、沈没シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ

第三十一條 失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ス

第三十二條 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スモトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セズ

失踪ノ宣告ニ因リテ財産ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財産ヲ返還スル義務ヲ負フ

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセ

サルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ハ總テ商會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區畫及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セス但法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十七條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資産ニ關スル規定

五 理事ノ任免ニ關スル規定

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行爲ヲ以テ第三十七條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨリ法人ノ財産ヲ組成ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ遺言カ效力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 設立許可ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
 六 資産ノ總額
 七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
 八 理事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設ケル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主たる事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三個月内ニ財産目錄ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設ケルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス
 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
 四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クとも毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス
第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得
第六十二條 總會ノ召集ハ少クとも五日以前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ
第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得
前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス
第六十六條 社團法人トハ社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス
第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三節 法人ノ解散
第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三 破産

四 設立許可ノ取消
社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス
一 總會ノ決議
二 社員ノ缺亡

第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得
但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス
前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得
第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス
定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財産ハ國庫ニ歸屬ス
第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス
第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス